

【研究ノート】

## 複製された手書き原稿で 日本近代文学を愉しもう(2)

(Why Not Relish Modern Japanese Literature  
through Facsimile Editions of Manuscripts? —2)

藤 井 哲\*

斎藤 茂吉 (1882-1953) :

旧姓守谷.

□『作歌四十年』 全4巻 中央公論美術出版 1974年7～12月 300部 10万円. 1906～44年の(未刊も含めた)歌集から抄出作業中に版元の中央公論社が内閣情報局により廃業させられて、「自らのおぼえのため」(p.2)に自釈を加えながら1944年7月に脱稿した墨筆清書稿で、1,833首683枚が4冊(134丁, 180丁, 203丁, 166丁)に和綴じされた. 今回美術出版社は予約者に一冊ずつ配本して代金を回収しながら忠実な複製を実現した. 第4巻の柴生田稔<sup>しばうた</sup>による別冊「解題」(71頁)は短歌の翻刻と索引を収める. △『斎藤茂吉全集<sup>20</sup>』岩波書店 1953年1月. 初載. ▽『作歌四十年：自選自解』筑摩叢書 1971年5月. 叢書版では短歌以外を新仮名で表示. ▽『斎藤茂吉全集<sup>10</sup>』岩波書店 1973年4月.

□『歌集白き山 自筆本』中央公論美術出版 1977年7月25日 300部 3万8,000円. 1946年詠の356首と翌年の468首を1948年7～8月に清書し

---

\* 福岡大学名誉教授

和綴じした 159 丁の自筆本を原寸原色で複製する。別冊の柴生田稔による「解題」(40 頁)は解説 (pp. 3-9)、目次、索引、翻刻、後記、跋を収める。

△『歌集白き山』岩波書店 1949 年 8 月。▽『同全集③』同 1974 年 8 月。

- 秋葉四郎(編著) 『茂吉の幻の歌集『萬軍』：戦争と斎藤茂吉』 岩波書店 2012 年 8 月 28 日 税別 2,100 円。 220 余首を自筆で連ねた巻紙 2 本を縮小して撮影した単色写真版 (pp. 151-164)。秋葉によると、「戦争の末期に、八雲書店企画の決戦歌集に応じ自ら一冊の歌集として茂吉が選出し、浄書」(p. 3) したが未刊状態に置かれた。第一部前半 (pp. 3-31) には『萬軍』および茂吉の戦争態度に関する論考。第二部 (pp. 99-147) には翻刻と秋葉による「検証」が併載されている。▲『歌集 萬軍』謄写版(無認定版) 1945 年夏。△『歌集 萬軍』紅書房 1988 年 2 月。巻末 (pp. 126-132) に柴生田による「特色一言」。【付記】：『同全集⑤』同 1975 年 8 月。但し、茂吉の「後記」(p. 100) のみを収録。

### 佐藤 春夫 (1892-1964) :

- \*『秋衣の歌』『樗陰 DVD』。 4 行 12 連の文語詩 5 枚。▲『中央公論』 1922 年 10 月。△『詩文集：我が一九二二年』新潮社 1923 年 2 月。▽『佐藤春夫全集①』講談社 1966 年 4 月。▽『定本佐藤春夫全集①』京都：臨川書店 1999 年 3 月。
- \*『芥川賞』『改造 DVD』——No. 91。 太宰治が『新潮』(1936 年 10 月) に「創生記」を寄せて芥川賞の選考委員である佐藤を歪曲して描いたことへの不快感を表明する 40 枚の小説。▲『改造』 1936 年 11 月。「憤怒こそ愛の極点(太宰治)」を副題にした巻頭文。△「或る文學青年像」として、『わが小説作法』新潮社 1954 年 8 月。▽『同全集⑧』同 1968 年 7 月。▽臨川版全集⑩ 1999 年 4 月。【参考】：『改造 原稿図録③』——⑫が 1, 16, 20, 21 枚目を掲載。

- \*「一夜の宿」『樗陰 DVD』。 小説 30 枚。 ▲『中央公論』1923 年 6 月 1 日。  
△『美人』新潮社 1924 年 1 月。 ▽『同全集⑥』同 1967 年 9 月。 ▽臨川版  
全集④ 1998 年 5 月。
- 「思ひ出のなかから」 NDL-DC がカラー (18 コマ) で公開。 短篇小説  
13 枚。 ▲『サンエス』サンエス本舗 1920 年 1 月。 万年筆会社の PR 誌。  
△「私の父と父の鶴との話」として、『幻燈』新潮社 1921 年 10 月。 ▽『同  
全集⑨』同 1968 年 11 月。 ▽臨川版全集③ 1998 年 4 月。
- \*「漢詩漫讀妄解」『改造 DVD』——No. 89。 李白と白樂天の鑑賞文 23  
枚。 ▲『改造』1936 年 2 月。 △『散人偶記』第一書房 1936 年 6 月。 ▽『同  
全集⑩』同 1966 年 6 月。 ▽臨川版全集⑫ 1999 年 5 月。
- \*「首くくりの部屋」『樗陰 DVD』。 隨筆 6 枚。 ▲『中央公論』1923 年 5  
月。 小特集「當世百物語」ちゅうに掲載。 △『退屈讀本』新潮社 1926 年 11  
月。 ▽『幻想文学④⑦』山梨：アトリエ OCTA 1996 年 6 月。 合著集。 ▽臨  
川版全集⑪ 1998 年 7 月。 ▽東雅夫(編)『日本怪奇実話集：亡者会』創元  
推理文庫 2020 年 9 月。 合著集。 【付記】：講談社の全集 (1966～70) には  
未収録のようである。
- \*「是亦生涯」『改造 DVD』——No. 95。 ④ 33 枚。 ▲『改造』1927 年 9  
月。 追悼小特集「芥川龍之介氏」ちゅうに掲載。 △浦西和彦(編)『未刊行  
著作集⑥：佐藤春夫』京都：白地社 1995 年 5 月。 ▽臨川版全集⑫ 1999 年  
1 月。 ▽『芥川追想』岩波文庫 2017 年 7 月。 【付記】：講談社の全集 (1966  
～70) には未収録の作品名。
- \*「サーベル礼讃」『改造 DVD』——No. 97。 1 枚。 ▲『改造』1923 年 10  
月(大震災號)。 △『定本佐藤春夫全集③④』京都：臨川書店 2001 年 2 月。  
初載？ ▽悪麗之助(編)『天變動く：大震災と作家たち』インパクト出版会  
2011 年 9 月。 合著集。 【付記】：生前の単行本にも、講談社の全集 (1966  
～70) にも未収録のようである。

- \*『**退屈問答**』『樗陰 DVD』。 創作的対話 38 枚。 ▲『中央公論』1924 年 1 月。 △『暮春挿話 その他』明窓社 1924 年 6 月。 ▽『佐藤春夫全集⑥』講談社 1967 年 9 月。 ▽臨川版全集④ 1998 年 5 月。
- \*『**大東亜戦史のうち昭南抄：詩篇**』大内青圃(画) 青果堂 1942 年 7 月 300 部 頒価不明。 臨川版全集(別巻①)(2001 年 8 月)が「書誌」に記しているが、CiNii に依ると国際日本文化研究センターのみが所蔵。
- \*『**大都會の一隅**』『改造 DVD』——No. 94。 小説 38 枚。 ▲『改造』1930 年 1 月。 △『佐藤春夫全集②』改造社 1932 年 1 月。 ▽『同全集⑦』講談社 1968 年 2 月。 ▽臨川版全集⑧ 1998 年 10 月。 【参考】：『改造 原稿図録 ②』——⑧が 1～3, 7, 13 枚目を掲載。冒頭の題案「大都會の一隅に自づと左傾する一詩人の咄」が抹消されている。
- \*『**燕（一幕三場）**』『改造 DVD』——No. 93。 戯曲 16 枚。 ▲『改造』1928 年 4 月。 △『日本戯曲全集④⑧：現代篇①⑥』春陽堂 1928 年 6 月。 合著集。 ▽『同全集⑤』講談社 1967 年 5 月。 ▽臨川版全集⑧ 2000 年 12 月。
- \*『**都會的恐怖**』『樗陰 DVD』。 4 枚の随筆。 ▲『中央公論』1924 年 5 月。 小特集「自動車横行時代」ちゅうに掲載。 △『退屈讀本』新潮社 1926 年 11 月。 ▽『同全集⑪』講談社 1969 年 5 月。 ▽臨川版全集⑨ 1998 年 7 月。
- \*『**美術新秋（二科及美術院展覽會瞥見）**』『改造 DVD』——No. 99。 17 枚+㊦1 枚。第 24 回二科展と第 14 回院展を評する。 ▲『改造』1927 年 10 月。 △『文藝一夕話』改造社 1928 年 7 月。 ▽『同全集⑪』講談社 1969 年 5 月。 ▽臨川版全集⑩ 1999 年 1 月。
- \*『**三十一文字といふ形式の生命**』『改造 DVD』——No. 96。 10 枚。 ▲『改造』1926 年 7 月(発禁)。 小特集「短歌は滅亡せざるか」ちゅうに掲載。 △『未刊行著作集⑥』(上掲)。 ▽臨川版全集⑨ 1998 年 7 月。 【付記】：生前の単行本には収められなかった由で、講談社の全集(1966～70)にも未収録。

- 『絵入 みよ子』 青果堂 1933年11月3日 500部 5圓. 6歳の養女が9歳になった6年前までを回顧した文章を清書し、<sup>はざま</sup> 俗伊之助が5葉の木版画を添えた19丁の和綴じ本を原寸原色で複製する. ▲「みよ子」として、『大調和』春秋社 1927年5月. △『佐藤春夫全集②』改造社 1932年1月. ▽『同全集⑦』講談社 1968年2月. ▽臨川版全集⑥ 1998年8月.
- \*『明治文学史手引草』『改造DVD』——No. 90. 中學生向けに硯友社から荷風までを展望した10枚. ▲『改造』1927年6月. 小特集「明治文学とその人々」ちゅうに掲載. △『慵斎雜記』<sup>ようさい</sup>千歳書房 1942年12月. ▽『定本佐藤春夫全集②⑩』京都：臨川書店 1999年1月. 【参考】：『改造 原稿図録②』——①が1, 9, 10枚目を掲載.
- \*『よもぎふ日記抄：一つの樋口一葉胸像』『改造DVD』——No. 88. 小説40枚. 1891～92年の日記に依って一葉が「雪の日」(1893)を起筆するまでを描く. ▲『改造』1943年10月. △『観潮楼附近』三笠書房 1957年5月. ▽『同全集⑧』講談社 1968年7月. ▽臨川版全集⑪ 1999年7月.
- \*『魯迅文学入門指針』『改造DVD』——No. 92. 6枚の評論. ▲『大魯迅全集①』：月報① 改造社 1937年2月. 魯迅全集編集委員としての執筆. 【付記】：講談社の全集(1966～70)にも、臨川書店の全集(1998～2001)にも未収録のようである.
- \*『佗しすぎる』『樗陰DVD』. 小説97枚. ▲『中央公論』1923年4月(春季大附録號). △『佗しすぎる』改造社 1923年7月. ▽『同全集⑥』講談社 1967年9月. ▽『現代日本文学大系⑫』佐藤春夫集 筑摩書房 1969年6月. ▽臨川版全集④ 1998年5月.
- 【参考】：『別冊太陽②④』平凡社 1978年9月. 掲載された「サンマの歌」や『殉情詩集』原稿(pp. 80-81)に佐藤の筆跡を見られる. 【付記】：巖谷大四は、『昭和国民文学全集②⑧：付録⑫』(筑摩書房, 1974)所収の「原稿用紙と筆ぐせ」で、「佐藤春夫氏と武田泰淳氏はよく口述筆記をさせた」と耳打ちしている.

里見 弴<sup>とん</sup> (1888-1983) : 本名山内英夫。号怡吾庵。有島武郎の弟。

- \*「或る別れ話」『改造 DVD』——No. 101. 小説 41 枚。▲『改造』1931 年 6 月。△『次代恐怖症』新小説社 1934 年 2 月。【付記】：筑摩書房の『里見弴全集』(1977～79) に作品名を見ず。
- \*「賣れぬ子」『改造 DVD』——No. 100. 44 枚。▲『改造』1936 年 8 月。△『アマカラ世界』中央公論社 1937 年 6 月。【付記】：筑摩版全集 (1977～79) に作品名を見ず。
- \*「縁談宴」<sup>やつれ</sup>『樗陰 DVD』。小説 32 枚。▲『中央公論』1925 年 4 月 (春季大附録號)。同年 7 月には続篇も掲載された。△改造社 1925 年 12 月。▽『日本の文学<sup>28</sup>』中央公論社 1974 年 7 月。▽『同全集<sup>5</sup>』筑摩書房 1978 年 4 月。
- \*「思ひつくまゝに」『改造 DVD』——No. 105. 随想 18 枚。▲『改造』1935 年 10 月。△『銀語録』相模書房 1938 年 4 月。【付記】：筑摩版全集 (1977～79) に作品名を見ず。【参考】：『改造 原稿図録<sup>2</sup>』——⑮が 1, 9 (後半), 10 (前半), 17 枚目を掲載。
- \*「木を伐る」『改造 DVD』——No. 102. 小説 21 枚。▲『改造』1928 年 2 月。△『その人』春陽堂 1930 年 3 月。▽『木魂・毛小棒大：里見弴短篇選集』中公文庫 2011 年 2 月。【付記】：筑摩版全集 (1977～79) に作品名を見ず。
- \*「スキー第一課日記」『改造 DVD』——No. 106. 随筆 21 枚。▲『改造』1935 年 2 月。△『銀語録』(上掲)。【付記】：筑摩版全集 (1977～79) に作品名を見ず。
- \*「善心悪心」『樗陰 DVD』。42 枚。「まごごろ哲学」に基づいた一連の短篇小説のうち。▲『中央公論』1916 年 7 月。△『善心悪心』春陽堂 1916 年 11 月。▽『同全集<sup>1</sup>』筑摩書房 1977 年 10 月。
- \*「踏切」『改造 DVD』——No. 103. 短篇小説 5 枚。▲『改造』1923 年 4

月. △『父親』 玄文社 1923年7月. ▽『里見弴全集②』 改造社 1932年5月.

【付記】: 筑摩版全集 (1977 ~ 79) に作品名を見ず.

- \*『旧き鎌倉』 『改造 DVD』——No. 104. 40年前を懐旧した随想 22枚とメモ 3枚. ▲『改造』 1936年6月. △『銀語録』 (上掲). ▽『時と共に』 毎日新聞社 1973年6月. 【付記】: 筑摩版全集 (1977 ~ 79) に作品名を見ず. 【参考】: 『改造 原稿図録③』——①が 1, 2, 18枚目を掲載.

- \*『雪の夜話』 『樗陰 DVD』. 小説 32枚. ▲『中央公論』 1920年1月. △『毒草』 春陽堂 1920年8月. ▽『同全集②』 筑摩書房 1977年12月.

【参考】: 紅野敏郎(編)「著作目録」『里見弴全集⑩』 筑摩書房 1979年4月 pp. 551-569. 【付記】: 原稿段階での里見独特の読みを示すルビが初出時には多く残っていたが、転載されるに連れて埋もれがちになったらしい.

### 志賀 直哉 (1883-1971):

- \*『雨蛙』 『樗陰 DVD』. 小説 23枚. ▲『中央公論』 1924年1月. △改造社 1925年4月. ▽『志賀直哉全集③』 岩波書店 1973年9月. ▽『ちくま日本文学②』: 志賀直哉』 2008年8月.

- 『暗夜行路』 『群像日本の作家⑨』: 志賀直哉』 小学館 1991年12月10日 税込 1,800円 pp. 208-217. 1921 ~ 37年に断続的に発表されてきた序詞 ~ 第四のうち、第四の(十九) ~ (二十)から5枚. そして本書の口絵に第一の草稿1枚と他の自筆資料も見られる. ▲『改造』 1937年4月. 「暗夜行路」は第四の(十六) ~ (二十)を掲載した本号を以て完結した. △『暗夜行路』 座右寶刊行會 1943年11月. ▽『同全集⑤&⑥』 岩波書店 1973年6 & 8月. ⑥で草稿が翻刻される. 【付記】: 『100選』——No. 31が第一の草稿1枚と第四の(十九)から38枚目を複製.

- 『老人』 『名著複製全集: 大正期』 日本近代文学館 1969年4月10日 4万 5,000円(セット価). セットの付録として, 「老を意識させられること

の不快さ、淋しさと、逆に老年のおちついた心境を求める心との葛藤を描いた心理小説」(解題冊子, p. 155) の原稿, すなわち『白樺』専用紙6葉(400字詰めに換算して9枚半相当)を原寸原色で複製。但し朱筆と墨書きは編集者の手らしい。▲『白樺』1911年11月。△『<sup>るめ</sup>留女』洛陽堂1913年1月。▽『同全集①』岩波書店1973年5月。▽『ちくま日本文学②』(上掲)。

### 島木 赤彦 (1876-1926) :

本名塚原俊彦, 入婿後久保田。号伏籠, 山百合, 柿の村人。

□\*『生々諸相』『樗陰DVD』。1921～22年詠の短歌37首を書き付けた5枚。▲『中央公論』1922年7月15日(増刊「世界平和と人類愛」號)。△『歌集: 大虚集』<sup>たいきょ</sup>古今書院1924年11月(アララギ叢書⑮)。▽『赤彦全集①』岩波書店1969年4月。

□『島木赤彦自筆による堀内卓歌集 復元版』諏訪市: 文化書局 1981年3月30日 500部 1万2,000円。夭折したアララギ派歌人堀内(1888-1910)を悼んだ赤彦が371首を創作年順に書き写した半紙を単色の和綴じ45丁に複製する。編者神戸利郎による「堀内卓の人と文学」(40頁)が別冊。

### 島崎 藤村 (1872-1943) :

本名春樹。

□「夜明け前」『名著複刻全集: 昭和期』日本近代文学館 1969年9月10日 4万5,000円(セット価)。2,760枚の歴史小説から「序の章」の冒頭5枚をセットの付録として原寸原色で複製する。▲『中央公論』1929年4月～32年1月(第一篇), 1932年4月～35年10月(第二部)。△『藤村文庫: 夜明け前』新潮社1932年1月。第一篇のみ。△『藤村文庫: 夜明け前』2冊 新潮社1935年11月。全篇。▽『藤村全集⑪&⑫』筑摩書房1966年9&10月。【再版】: 『新選名著複刻全集』同館1970年4月～同年10月(第



- 4刷)<sup>1</sup>。付録。【参考】：『群像日本の作家④』小学館 1992年2月 pp. 80-88。  
冒頭4枚半。【参考】：『小説は書き直される』pp. 14-26。1枚目と加筆の跡  
を留める校正刷りを縮小多色刷りにして対照させる。【参考】：1987年に  
長野県建築士会が第37回通常総会で、編集時の書き入れを抹消した冒頭3  
枚の複製を記念品として配布した。【付記】：『100選』——No. 17が「序の章」  
1枚目、No. 16が1908年の連載「春」から第3回の1枚目を複製する。
- 『肉筆原稿で読む島崎藤村』伊東一夫・青木正美(編) 国書刊行会 1998年  
12月10日(島崎藤村コレクション④) 税別5,200円。 ①「爺<sup>おやぢ</sup>」⇒ 短篇  
小説全23枚を、 $\frac{1}{3}$ 大に縮小しカラーで掲載(pp. 11-23)。 ▲『小天地』金尾  
文淵堂 1903年1月。 △『緑葉集』春陽堂 1907年1月。 ▽『藤村全集②』  
筑摩書房 1966年12月。 ②「黄昏」⇒ 短篇小説全6枚を $\frac{3}{4}$ 大に縮小し  
単色で掲載(pp. 24-35)。 ▲『文章世界』博文館 1907年6月15日。 △『藤  
村集』博文館 1909年12月。 ▽『同全集③』同 1967年1月。 ③「千曲  
川旅情のうた」⇒ 晩年に浄書した冒頭部4枚を $\frac{1}{3}$ 大に縮小し単色で掲載  
(pp. 36-37)。 ▲「旅情」として、『明星』東京新詩社 1900年4月。 △「小  
諸なる古城のほとり」として、『落梅集』春陽堂 1901年8月。 ▽『同全集①』  
同 1966年11月。【参考】：この4枚は青木(2002)にも $\frac{1}{2}$ 大で再掲(pp.  
30-31)。 ④「地中海の旅」⇒ 連載初回の全5枚を $\frac{1}{3}$ に縮小して単色で  
掲載(pp. 52-61)。 ▲『中央文学』春陽堂 1917年6月～翌1月。 △「父を追  
想して書いた船旅の手紙」を副題にして、『海へ』實業之日本社 1918年7月。  
▽『同全集⑧』同 1967年6月。 ⑤「北村透谷遺著 透谷全集 全一卷」⇒  
藤村が編者として執筆した「序」から2枚と、1893年8月に透谷が花巻か  
ら北村ミナに宛てた「最近に未亡人の手許に発見せられた」書簡を藤村が  
多少編集した「旅より妻に送りしもの」5枚を、それぞれ $\frac{3}{4}$ に縮小して単

<sup>1</sup>『新選名著複製全集』の第5刷(1972年4月)以降では、付録が夏目漱石の『四篇』(春陽堂、1910)ちゅうの「山鳥」自筆原稿(後述)に変更された。

色で掲載(pp. 64-79). △『透谷全集』春陽堂 1922 年 3 月. ▽「序」を「北村透谷二十七回忌に」と改題して、『同全集⑨』同 1967 年 7 月. 書簡は⑨でカットされたが筑摩書房の『現代日本文学大系⑥:北村透谷・山路愛山集』(1969)で読める(pp. 218-219). 【参考】:本書で青木は更に、『破戒』冒頭㊦1 枚(p. 40), 『春』(3)の 1 枚目(p. 42), 『家』末尾 1 枚(pp. 44-45), 『新生』の後篇第 141 章から 3 枚(pp. 46-51), 『佛蘭西紀行』(8)の 1 枚目(pp. 62-63), 『春を待ちつゝ』㊦2 枚(pp. 80-81), 『藤村童話叢書』2 枚(pp. 82-85), 『斎藤先生』2 枚(pp. 88-91), 『嵐』2 枚(pp. 92-95), 『夜明け前』冒頭 2 枚半(pp. 102-106), 『東方の門』では絶筆になった(3)の 2 枚分(pp. 109-112)を、それぞれ縮小した単色刷りで掲載している.<sup>2</sup>

しゃくのちょうくう  
釋 超空 (1887-1953):

本名折口信夫.

- 『超空自筆 うみやまのあひだ』明治書院 1964 年 1 月 10 日 限定版(部数不明) 600 円. 202 首を緑色インクで書き出した 52 枚を 1915 年に託されていた安藤英方が、半世紀後に原寸原色で複製し和綴じ本にして出版する. 安藤は別冊に解説(pp. 1-10)と翻刻(pp. 11-24)を執筆している.<sup>3</sup>
- △『海やまのあひだ』改造社 1925 年 6 月. 1925 年までの 681 首を集めた第一歌集で、その際に 52 枚の歌稿に筆が加えられた. ▽『折口信夫全集㊦』中公文庫 1975 年 9 月. ▽『釈超空全歌集』角川ソフィア文庫 2016 年 6 月.
- 【参考】:『同全集㊦』中公文庫 1976 年 6 月. 「自歌自註」を収録.

<sup>2</sup> 本書で青木は「藤村の筆跡」(pp. 226-230)を執筆し、文豪ちゅうでは藤村の筆跡が人間性を最も顕著に示していると評している. なお青木による古書籍商としての一連の自筆原稿図版集の主なタイトルを本稿末尾の《参考文献》に挙げる.

<sup>3</sup> 「…活字になってしまうと、書いた人のにおいがぬけていて、干物のような気がする。「古池や」の句にしてからが、芭蕉の筆蹟と活字とでは、受ける感じが、てんで違う. ことに釈さんのときたら、あの読みづらい、ちょろちょろ書きの、誰にも真似のならぬ、一流の字をたどりたどりしてこそ、はるかなる空に導かれるような香気にひたることが可能である。」(p. 9).

- 『自筆原稿 芹川行幸』 千葉：折口信夫研究会 1989年10月30日(折口信夫研究資料叢書①) 300部 非売品. 1946年秋の國學院大學祭で上演された際の台本㊦40枚を原寸単色で複製. 石内徹の「解説:あそびの文学」(11頁)と「注記」(11頁)を併載し, 正誤表1枚が付く. ▲『苦樂』苦樂社 1947年1月. △『折口信夫全集㉔』中央公論社 1955年6月. ▽『同全集㉔』中公文庫 1975年12月.

鈴木 三重吉 (1882-1936) :

- 「古事記物語」『複製 赤い鳥の本』ほるぷ出版 1980年10月15日(第3刷) 4万2,500円(セット価). 無罫の㊦28枚で「女神の死」の章すべて. 原寸原色での複製であろう. ▲『赤い鳥』赤い鳥社 1919年7月. △『赤い鳥の本①:古事記物語上巻』赤い鳥社 1920年12月. ▽『古事記物語』角川文庫 1955年1月. 【付記】:『複製 赤い鳥の本』の初刷(1969)と第2刷(1977)にはこの付録が無い.

高濱 虚子 (1874-1959) :

旧姓池内. 本名清.

- \*「朝の庭」『改造 DVD』——No. 118. ㊦6枚の随想. ▲『改造』1921年7月15日(夏期臨時號). 小特集「變つた避暑地」ちゅうに掲載. △『朝の庭』改造社 1924年6月(隨筆叢書④). ▽『定本高濱虚子全集⑧』毎日新聞社 1974年4月.
- 『虚子百句:高濱虚子自選自筆句集』京都:便利堂 1958年12月10日 2,800円 《40×26cm / 頁付け無》. 書肆の提案を受けて83歳の虚子が自作から春24句, 夏18句, 秋28句, 冬22句, 新年8句を選び揮毫した100枚の短冊が, 二つ折りにされた左頁に2枚ずつほぼ原寸単色でコロタイプ印刷され, 対向頁に高濱年尾(長男)と星野立子(次女)によるコメントが添えられた.

- 『自選自筆 虚子百句』 岩波書店 / 便利堂(印刷) 2010年5月25日 税別4,400円 《四六倍判 / 131頁》。 没後50年を記念して、便利堂版から短冊を60%大に二色刷りでオフセット印刷し、コメントを新漢字で組み直し、山嘉正による「解説」(pp. 116-124)と「出典一覧」(p. 125)を加えた復原版。
- \*『明治文學について 平凡化された漱石』『改造 DVD』——No. 123。 平凡を標榜する虚子が漱石に平凡な一面を捉えた㊦55枚の随想。 ▲『改造』1927年6月。 小特集「明治文學とその人々」ちゅうに掲載。 △『高濱虚子全集㊦』改造社 1934年7月。 ▽『漱石全集㊦：漱石言行録』岩波書店 1996年2月。 【付記】：毎日新聞社の虚子全集(1973～75)には見られない。 【参考】：『改造 原稿図録㊦』——㊦に冒頭の㊦4枚。
- 『高濱虚子遺墨：ホトトギス創刊 1000号記念出版』松井利彦(編) 求龍堂 1980年5月25日 1,000部 4万8,000円 《B4変型》。 書簡・色紙・短冊・軸装等の墨蹟200点(うち50点はカラー印刷)を本書のサイズに合わせた縮尺率で掲載する。 ノンブルは無い。 松井による「別冊解説」(130頁)は翻刻も兼ねている。

高村 光太郎 (1883-1956) :

本名<sup>みつ</sup>光太郎。 号<sup>なかつむらさいう</sup>篁碎雨。

- 『詩稿「暗愚小伝」』北川太一(編) 二玄社 2006年3月20日 2,500円。 自らの戦争責任を意識しつつ終戦までの半生を振り返った詩20篇。 1947年に『展望』へ送られた清書稿28枚を原寸原色で複製し、更に草稿㊦55枚、発想稿や断片などを60%に縮小して原色複製する。 本書の後半に釈文と註解(pp. 80-149)が続く。 ▲『展望』筑摩書房 1947年7月。 △宮崎稔(編)『典型：高村光太郎詩集』中央公論社 1950年10月。 ▽『定本高村光太郎全詩集』筑摩書房 1982年6月。
- 『日本美の源泉』 中央公論美術出版 1972年8月10日 300部 1万5,000

円 連載「日本美の源泉 (一)～(五)」および「〔六〕能面「深井」」の原稿合わせて 35 枚の和綴じ本を原寸原色で複製する。但し (四) の 1 枚目は活字組みで補綴されている。別冊 (19 頁) には北川太一の「草稿「日本美の源泉」解題」を収録。▲『婦人公論』1942 年 7～12 月。△加筆・訂正を施し「美の日本的源泉」と改題して、『高村光太郎選集③』中央公論社 1951 年 9 月。▽「日本美の源泉」として、『異貌の日本近代思想①』書肆心水 2015 年 8 月。

- \*「某月某日」『改造 DVD』——No. 124. 随筆 13 枚。昭和 18 年 2 月に上野で開催された「明治美術展覧會」の評。▲『改造』1943 年 4 月。△『高村光太郎全集⑨』筑摩書房 1957 年 11 月 pp. 354-361. 収録された「某月某日」9 本のうち。【参考】:『改造 原稿図録①』——②に冒頭 1 枚。【付記】:『某月某日』(龍星閣, 1943) 掲載の 6 本は同題の別記事。
- 「レモン哀歌」『100 選』——No. 33. 1939 年 2 月 23 日付の歌稿。▲『新女苑』實業之日本社 1939 年 4 月。△『智恵子抄』龍星閣 1941 年 8 月。▽『高村光太郎全集②』筑摩書房 1957 年 10 月。【参考】:『別冊太陽②④』平凡社 1978 年 9 月。原寸原色の複製が特別付録として折り込まれた。【付記】:『100 選』——No. 32 の 1 枚も『智恵子抄』ちゅうの「山麓の二人」(1938 年 8 月)。
- 『高村光太郎全詩稿』北川太一(編) 全 2 冊 二玄社 1967 年 10 月 30 日 1,000 部 1 万 8,000 円 《38×28cm / 前付・中扉+868+索引 20 頁》。「光太郎がつねに身邊におき、推敲、改作を加えた詩稿の完全な覆刻」(凡例)として、473 篇の初稿・異稿・断片等のすべてを 70% 大の単色写真あるいは各章中扉において原寸原色で複製を掲載しており、例えば上述の『暗愚小傳』関連なら Nos. 403A, 403B, 404 として図版と翻刻と解説が揃っている (pp. 672-712)。但し、草稿が失われた 7 篇については最終詩形で「付録 I 詩篇補遺」(pp. 841-845) に活字に組んで印刷され、「付録 II 詩集覚書」

(pp. 847-863)は刊行された詩集の書誌的解説。別に1枚の正誤表あり。【参考】:『別冊太陽24』平凡社 1978年9月 p. 63. 死去する年の詩「**生命の大河**」の初稿1枚をやや縮小して単色で掲載。

- 「滑稽詩二篇」 青木(2002) pp. 78-82. 「**Rilke Japonica etc.**」～「**赤トンボ**」の原稿3枚。 ▲『**展望**』筑摩書房 1950年1月。 △『**高村光太郎全集** 3』筑摩書房 1958年2月。初載？

**瀧井 孝作** (1894-1984) :

おりしば せっさい  
俳号折柴→折柴。

- \*「**無限抱擁**」『**改造 DVD**』——No. 125. 全4章の自伝的長篇において第3章に用いられたが、その(一)～(九)のうち原稿は(三)の終わり近くまでの㊦102枚しか残っていないらしい。 ▲『**改造**』1923年6月。 △『**無限抱擁**』改造社 1927年9月。 ▽講談社文芸文庫 2005年8月。 【参考】:『**改造 原稿図録1**』——⑩に冒頭の5枚。
- 『**句集山櫻**』講談社 1975年5月8日 700部 1万8,000円。 和本仕立てであり、瀧井は4丁ある「はしがき」で、先ず「筆の味はひの見えるたのしみ」に触れてから、「鉛筆書きの原稿のまま玻璃版[コロタイプ]にしたもの」を出版すべく1909～74年刊行の5俳句集より約450句を75丁に抄出行尊の「もろともにあはれとおもへ山櫻はなよりほかにしるひともし」に因んで本書を『**山櫻**』と命名したと解説。

**竹久 夢二** (1884-1934) :

本名茂次郎。

- 『**九十九里へ**』青燈社 1940年9月1日 600部 6圓。 房総から松島へ北上して上野駅へ戻るまでの汽車旅行のスケッチを清書した和紙45丁+版画26葉、それに「確かにある時代の文字に相違ない」と鑑定した秋田雨雀(既出)の「夢二の草稿を見て」3丁を併せて和本仕立てに綴じて、2枚の杉板で挟む。 ▲『**讀賣新聞**』1907年5月。再録は無かったであろう。

- \*『**荒都記**』『改造 DVD』——No. 127. 8枚の関東大震災体験記。▲『女性改造』改造社 1923年10月。△「赤い地図第二章」と副題されて、『竹久夢二詩画集』岩波文庫 2016年9月。【付記】：生前には単行本化されなかったらしい。
- 『**夢二歌集 五月の旅**』齋藤昌三(編) 書物展望社 1941年2月3日 3圓。晩年近くに290首を自選した詠草64丁を、原寸のまま黒・濃緑色に刷って紙縫りで束ねた複製本。【参考】：NDL-DCが書物展望社版を単色(69コマ)で公開。【付記】：活字化はされなかったようである。
- 『**五月の旅**』冬至書房 1972年8月20日 1,000部 1,200円。枳目を橙色に刷った以外は上述の齋藤本と同じ造本に複製。帯文には、「過ぎし流離漂泊の途々を追懷に託し」た歌集としては唯一の自筆稿とある。
- 『**見せられない日記**』塚本栄次郎(編) 組合書店 1957年8月15日 500部 1,000円。「あの子に逢ひそめてから、その折々の言葉のはしや、逢はぬ夜のつれづれに前後もなく書きとめたもの」(書き出し)だそうで、有島生馬が成立時期を「大正初年頃、夢二、二十七八歳前後」(別冊)と推定した手帳を、原装通りに複製する。別冊(174頁)は、図版と翻刻(pp. 45-119)、10名が寄稿した随想を収録し、その「あとがき」では長田幹雄が「あの子」を藝者の「草の実」と推定している。△ノーベル書房 1975年10月(浪漫文庫)。▽仁藤祐治『岳麓漫步⑧：竹久夢二』静岡：悦声社 1984年10月 pp. 81-173。【付記】：生前には単行本化されなかったようである。

**太宰 治** (1909-48)： 本名津島修治。筆名辻島衆二、小菅銀吉、大藤熊太。

- 『**井伏鱒二選集 草案**』『DVD版太宰治③』<sup>4</sup>——No. 31. 1947年夏に三

<sup>4</sup> 『DVD版日本近代文学館所蔵太宰治直筆原稿集』DVD3枚組 同館(発行)/丸善雄松堂(発売) 2014年2月1日 各税別3万円。1942年以降の主要作品を網羅すべく22作品の原稿と草稿、その他の草稿断片や草案等34点から3,417枚の自筆資料、更に初出誌に書き入れが残されているページも収録。解題は安藤宏。本稿では『DVD版太宰治』と略

鷹で『井伏鱒二選集』（筑摩書房、1948～49年、全6→9巻）刊行に向けた打ち合わせ会が井伏も同席して催され、「後記」の執筆予定者太宰が第1～6巻の内容を構想した。①第1系統の草稿⇒㊦13枚+13枚目裏。△『太宰治全集⑩』筑摩書房 1977年2月。初載。▽『太宰治全集⑩』筑摩書房 1990年12月。②第2系統の草稿⇒6枚。△『決定版太宰治全集⑬』：原稿・草稿』筑摩書房 1999年5月。活字による再現（初載）。

- \*『井伏鱒二選集』第一巻後記』『DVD版太宰治②』——No. 18. 1947年晩秋頃の㊦21枚。△『井伏鱒二選集①』筑摩書房 1948年3月。▽『井伏鱒二選集』後序：井伏鱒二のこと」として、『如是我聞』新潮社 1948年11月。第1～4巻の「後記」。▽『井伏鱒二選集』後記』として、『太宰治全集⑩』同 1990年12月。「後記」は口述筆記されたと伝えられているが、伝存する第1巻のための「原稿の筆跡は、太宰治のもの」（p. 628）らしい。
- 中野和子 「太宰治「陰火」原稿」『資料と研究⑮』 山梨県立文学館 2010年3月12日 pp. 8-50. 全39枚を約40%に縮小（pp. 12-50）して単色で掲載し、「写真では、不分明な部分については、原稿から判読」できた範囲を註に織り込む。▲『文藝雑誌』砂子屋書房 1936年4月。△『晩年』砂子屋書房 1936年6月。▽『同全集①』同 1989年6月。【付記】：小見出し別では、「誕生」「紙の鶴」「水車」には加筆訂正の跡がほとんど無いので清書稿と思われるのに対し、「尼」だけは直しが際立って多い由。
- 井上康明 「太宰治「ヴィヨンの妻」原稿について」『資料と研究⑩』 山梨県立文学館 2005年3月10日 pp. 47-110. 筑摩書房から返却された原稿㊦114枚を津島美和子が装幀しており、その全葉を表紙・裏表紙共々約40%に縮小して単色で掲載する。口絵には多色刷りで、原稿の1枚目と

記する。また2014年3月には、旧制青森中學・旧制弘前高校時代の日記・ノート・同人誌など周辺資料56点も追加してオンライン版日本近代文学館所蔵太宰治自筆資料集。が30万円で販売されたが、どちらも未見なので\*印を付して、ネットに公開されている両コレクションに関する書誌的解題から情報を得た。



- 114 枚目、井伏鱒二が揮毫した題簽を 60% 大に収録する。但し、「写真では、訂正前の表記が不分明な部分があり、実際の原稿から判読出来る部分について、出来る限り註を付す」とある。▲『展望』筑摩書房 1947 年 3 月。△『ヴィヨンの妻』筑摩書房 1947 年 8 月 5 日。▽各種の文庫本に収録。
- \*『右大臣實朝』『DVD 版太宰治①』——No. 3. 書き下ろしの長篇㊦605 枚。△『右大臣實朝』大阪：錦城出版社 1943 年 9 月。▽『同全集⑤』同 1990 年 2 月。
- \*「<sup>おうそん</sup>黄村先生言行録」『DVD 版太宰治①』——No. 2. 短篇㊦74 枚。▲『文學界』文藝春秋社 1943 年 1 月。△『佳日』肇書房 1944 年 8 月。▽『津軽通信』新潮文庫 1982 年 1 月。▽『同全集⑤』同 1990 年 2 月。
- \*『櫻桃』『DVD 版太宰治②』——No. 20. ㊦30 枚。▲『世界』岩波書店 1948 年 5 月。△『櫻桃』實業之日本社 1948 年 7 月。▽各種の文庫本に収録。【参考】：『決定版同全集⑬』同 1999 年 5 月。別に㊦2 枚の草稿を活字にして完成稿と対照。
- \*『大鴉』『DVD 版太宰治③』——No. 27. 書簡に謂うところの「インチキ文化人の活躍」を描こうとしたが中断した断片㊦5 枚。▲『八雲』八雲書店 1948 年 11-12 月。太宰治未発表作品特集。△『大鴉断片』として、『同全集⑫』同 1956 年 9 月。▽『同全集⑩』同 1990 年 12 月。【参考】：『決定版同全集⑬』同 1999 年 5 月。断片の文字配列を活字で再現する。
- \*『おさん』『DVD 版太宰治②』——No. 13. 短篇㊦60 枚。▲『改造』1947 年 10 月。△『櫻桃』實業之日本社 1948 年 7 月。▽『同全集⑨』同 1990 年 10 月。
- 「原稿『お伽草紙』」『資料集③：太宰治・原稿『お伽草紙』と書簡』青森県近代文学館 2003 年 10 月 31 日 pp. 1-30. 前書きと「瘤取り」の全 30 枚を 70% に縮小した単色写真版。口絵には中河與一宛書簡が多色刷りされている。▲『現代』講談社 1945 年 4 月。掲載されなかった。△『お伽草

紙』筑摩書房 1945 年 10 月。初載。▽各種の文庫本に収録。【付記】：長部日出雄の「『お伽草紙』の詩と真実：その生原稿から見えて来るもの」をこの紀要では pp. 31-37 に併載。

- \*「花燭」『DVD 版太宰治③』——No. 26。 筐底にあった草稿㊦18 枚。△「『花燭』草稿断片」として、『同全集⑩』同 1977 年 2 月。▽『決定版同全集⑬』同 1999 年 5 月。完成稿㊦48 枚+草稿㊦18 枚。【参考】：『愛と美について』竹村書房 1939 年 5 月。収録の「花燭」完成作品では㊦48 枚。
- 「カレツヂ・ユーモア・東京帝國大學の巻」『DVD 版太宰治③』——No. 23。 1936 年に東京社の雑誌『奥の奥』からリレー連載への寄稿を依頼されたらしいが不採用になった㊦55 枚(以上?)のうち現存する㊦25 枚で、断片 A (反古 1 枚)+B(20~23+20 裏)+C(35~54) からなる。△『同全集⑩』同 1977 年 2 月。『二十世紀旗手』断片」と題して『奥の奥』に送られ没になった原稿を計らずも掲載。▽「カレツヂ・ユーモア・東京帝國大學の巻」断片」として、『同全集⑩』同 1990 年 12 月。▽「カレツヂ・ユーモア・東京帝國大學の巻」として、『決定版同全集⑬』同 1999 年 5 月。活字で原稿のイメージを再現。【付記】：『同全集⑫』同 1956 年 9 月。『二十世紀旗手』(1937)では削除されていた「七唱 わが日わが夢」用の原稿 30 枚から一部を「断片」として筑摩版全集で掲載するようになった。
- \*「貴族風」『DVD 版太宰治③』——No. 24。 1937 年頃執筆の草稿の一部 24 枚。△「『古典風』草稿断片」として、『同全集⑩』同 1977 年 2 月。▽「『貴族風』断片」として、『同全集⑩』同 1990 年 12 月。【参考】：『決定版同全集⑬』同 1999 年 5 月。草稿、初出稿「古典風」、別系統の 7 枚を活字で再現し、対照させる。【付記】：『知性』(河出書房, 1940 年 6 月)に発表された「古典風」は『女の決闘』(河出書房, 1940 年 6 月)に収録後『同全集③』(同, 1988 年 10 月)にも再掲された。
- \*「饗應夫人」『DVD 版太宰治②』——No. 15。 短篇㊦39 枚。▲『光

- Claire』光文社 1948 年 1 月。△『櫻桃』實業之日本社 1948 年 7 月。▽『同全集⑨』同 1990 年 10 月。▽『グッド・バイ』新潮文庫 2008 年 9 月。
- \*「グッド・バイ」『DVD 版太宰治③』——No. 22. ①完成稿 ⇨ ㊦36 枚 ▲『朝日新聞』1948 年 6 月。作者急死により初回で打ち切れ、未掲載分は 7 月に『朝日評論』が掲載。△『人間失格』筑摩書房 1948 年 7 月。▽『同全集⑨』同 1990 年 10 月。▽各種文庫本。②草稿 ⇨ ㊦31 枚。△『決定版同全集⑬』同 1999 年 5 月。草稿と完成稿で表現の異なる箇所を活字組みで抜き出して対照させる。
- \*「斜陽」『DVD 版太宰治②』——No. 11. ①完成稿 ⇨ ㊦521 枚 ▲『新潮』1947 年 7～10 月 (4 回)。△『斜陽』新潮社 1947 年 12 月。▽各種の文庫本に収録。【参考】:『群像日本の作家⑬』小学館 1991 年 1 月 pp. 86-97. 1947 年 8 月掲載分から㊦12 枚、口絵にカラーで末尾㊦2 枚。【参考】:『文豪とアルケミスト文学全集』新潮社 2017 年 10 月 pp. 126-128. 第 3 & 4 回用完成稿から各冒頭の㊦2 枚を縮小し単色で掲載。【付記】:『100 選』——No. 93 が冒頭の㊦2 枚。②草稿 ⇨ ㊦42 枚。△『決定版同全集⑬』同 1999 年 5 月。ページ上段に草稿と異なる部分を完成稿から転載し、下段に草稿の該当箇所を活字組みにして再現し対照させる。
- \*「女類」『DVD 版太宰治②』——No. 19. 短篇㊦45 枚。▲『八雲』八雲書店 1948 年 4 月。△『櫻桃』實業之日本社 1948 年 7 月。▽『同全集⑨』同 1990 年 10 月。▽『グッド・バイ』新潮文庫 2008 年 9 月。
- \*「正義と微笑」『DVD 版太宰治①』——No. 1. 実在の歌舞伎役者が遺した日記を素材に太宰が書き下ろした小説㊦583 枚。△『正義と微笑』大阪: 錦城出版社 1942 年 6 月。▽『同全集⑤』同 1990 年 2 月。▽『パンドラの匣』新潮文庫 2009 年 4 月。
- \*「「惜別」の意圖」『DVD 版太宰治③』——No. 29. 1944 年の春頃に太宰が内閣情報局に提出した執筆申込書㊦11 枚。△『同全集⑫』同 1956 年

9月、初載。▽『同全集⑩』同1990年12月。【参考】：『決定版同全集⑬』同1999年5月。作品のための構想メモをpp. 360-390に活字組みにして再現する。【付記】：委嘱された結果の作品『惜別：医学徒の頃の魯迅』は1945年9月に朝日新聞社(大阪)より刊行された。

- \*「全集目次案」『DVD版太宰治③』——No. 30。八雲書店により全16(後に18)巻で1948年に発刊されたが、本人の自殺で1949年の第14回配本で中絶した『太宰治全集』を構想された頃に太宰がメモした目次案㊦12枚。△『決定版同全集⑬』同1999年5月。活字で再現。
- \*「男女同権」『DVD版太宰治②』——No. 6。43枚。▲『改造』1946年12月。△『ヴィヨンの妻』筑摩書房1947年8月。▽『同全集⑧』同1990年8月。▽『グッド・バイ』新潮文庫2008年9月。
- \*「父」『DVD版太宰治②』——No. 9。㊦43枚。▲『人間』鎌倉文庫1947年4月。△『ヴィヨンの妻』(上掲)。▽『同全集⑧』同1990年8月。
- \*「トカトントン」『DVD版太宰治②』——No. 7。35枚。▲『群像』講談社1947年1月。△『ヴィヨンの妻』(上掲)。▽『同全集⑧』同1990年8月。
- \*「如是我聞」『DVD版太宰治③』——No. 28。草稿㊦13枚のみ。▲『新潮』1948年3,5～7月。絶筆。△『如是我聞』新潮社1948年11月。▽『人間失格』岩波文庫1988年5月。【参考】：『決定版同全集⑬』同1999年5月。草稿と執筆手帖の25頁分を活字で再現して完成稿と対照させる。
- 『人間失格』えくらん社1958年9月20日(肉筆版選書)1,000部1,450円《A5判/412+解説4頁》。4冊に和綴じされていたB5判㊦412枚の完成稿を85%に縮小した単色写真版。▲『展望』筑摩書房1948年6～8月。△『人間失格』筑摩書房1948年7月。▽各種文庫本。【付記】：『100選』——No. 94が「はしがき」冒頭と「第一の手記」冒頭の各㊦1枚。
- 『直筆で読む「人間失格」』集英社2008年11月19日(新書ヴィジュアル版)税別1,400円。完成稿㊦412枚を50%に縮小して多色刷りする。

- \*「人間失格」『DVD 版太宰治③』——No. 21.     ①完成原稿 ⇨ ㊦412 枚。  
②草稿 ⇨ ㊦157 枚。【参考】：『決定版同全集⑬』同 1999 年 5 月。pp.  
5-213 のページ上段に完成稿を、下段には 1998 年に初公開された㊦159 枚  
分の草稿メモを（一部については縮小単色写真を添えて）、それぞれ活字で  
再現する。
- \*「<sup>はいとく</sup>悖徳の歌留多」『DVD 版太宰治③』——No. 25.     1937 年に脱稿したも  
のの『文藝春秋』がボツにしていた 21 枚の創作から伝存する断片 10 枚。  
△「『懶惰の歌留多』草稿断片」として、『同全集⑩』同 1977 年 2 月。▽「『悖  
徳の歌留多』断片」として、『同全集⑩』同 1990 年 12 月。【参考】：『決定  
版同全集⑬』同 1999 年 5 月。この断片と後の完成稿「懶惰の歌留多」35 枚  
を対照させる。【参考】：完成作品としての「懶惰の歌留多」の掲載歴は次  
の通り。▲『文藝』改造社 1939 年 4 月。△『女性徒』砂子屋書房 1939 年 7 月。  
▽『同全集②』同 1989 年 8 月。
- \*「母」『DVD 版太宰治②』——No. 8.     ㊦44 枚。▲『新潮』1947 年 3 月。  
△『ヴィヨンの妻』筑摩書房 1947 年 8 月。▽『同全集⑧』同 1990 年 8 月。
- \*「春の枯葉」『DVD 版太宰治②』——No. 5.     1946 年 5 月に起筆された  
戯曲㊦148 枚。▲『人間』鎌倉文庫 1946 年 9 月。△『冬の花火』中央公論  
社 1947 年 7 月。▽『同全集⑧』同 1990 年 8 月。▽『グッド・バイ』新潮  
文庫 2008 年 9 月。
- \*「犯人」『DVD 版太宰治②』——No. 14.     ㊦50 枚。▲『中央公論』1948  
年 1 月。△『櫻桃』實業之日本社 1948 年 7 月。▽『同全集⑨』同 1990 年  
10 月。【参考】：『決定版同全集⑬』同 1999 年 5 月。草稿の断片と完成稿  
を活字で再現して対照。
- \*「眉山」『DVD 版太宰治②』——No. 17.     ㊦43 枚。▲『小説新潮』1948  
年 3 月。△『櫻桃』（上掲）。▽『同全集⑨』同 1990 年 10 月。▽『グッド・  
バイ』新潮文庫 2008 年 9 月。

- \*「美男子と煙草」『DVD 版太宰治②』——No. 16. ㊦27 枚. ▲『日本小説』日本小説社 1948 年 3 月. △『櫻桃』(上掲). ▽『同全集⑨』同 1990 年 10 月. ▽『グッド・バイ』新潮文庫 2008 年 9 月.
- \*「フォスフォレスセンス」『DVD 版太宰治②』——No. 12. 短篇㊦26 枚. ▲『日本小説』日本小説社 1947 年 7 月. △『太宰治隨想集』若草書房 1948 年 3 月. ▽『同全集⑧』同 1990 年 8 月. ▽『グッド・バイ』新潮文庫 2008 年 9 月. 【付記】: 太宰は phosphorescence と作中の花を呼んだ.
- \*「冬の花火」『DVD 版太宰治②』——No. 4. 太宰が「劇界, 文學界に原予バクダンを投ずる意気ごみ」(書簡)で執筆した 3 幕の悲劇㊦124 枚で, 彼には初めての戯曲作品であった. ▲『展望』筑摩書房 1946 年 6 月. △『冬の花火』中央公論社 1947 年 7 月. ▽『同全集⑧』同 1990 年 8 月. ▽『グッド・バイ』新潮文庫 2008 年 9 月.
- \*「女神」『DVD 版太宰治②』——No. 10. ㊦41 枚. ▲『日本小説』大地書房(創刊号のみ) 1947 年 5 月. △『女神』白文社 1947 年 10 月. ▽『津軽通信』新潮文庫 1982 年 1 月. ▽『同全集⑧』同 1990 年 8 月.
- 『資料集②: 太宰治・晩年の執筆メモ』青森県近代文学館 2001 年 8 月 31 日. 鎌倉文庫製執筆者手帳、2 冊に記入のある全頁を pp. 1-9 & 11-41 に原寸単色写真版. 口絵には両手帖の表紙を原色で掲載し, pp. 43-53 に安藤宏による解題「「太宰治・晩年の執筆メモ」の問題点」. ①「文庫手帖 1947」⇒ 36 頁分あって, 主に「斜陽」(1947 年 7 ~ 10 月)に関する執筆メモ. ▲「『斜陽』ノート」として, 『八雲』八雲書店 1948 年 11-12 月(太宰治未発表作品特集). 活字で再現. △「『斜陽』手帖」として, 『決定版同全集⑬』同 1999 年 5 月. ②「文庫手帖 1948」⇒ 初公開の 114 頁. 「人間失格」(1948 年 6 ~ 8 月), 「如是我聞」(1948 年 3 ~ 7 月), 「グッド・バイ」(1948 年 6 ~ 7 月), 「女類」(1948 年 4 月), 「渡り鳥」(1948 年 4 月), 「眉山」(1948 年 3 月)に関するメモが遺されている. △『決定版同全集⑬』同 1999 年 5

月、「[如是我聞]手帖」として翻刻されている。

- 『資料集⑤：太宰治・旧制弘高時代ノート』 青森県近代文学館 2008年3月21日。 「イタズラがきだらけ」と評された全頁を ¾ に縮小した単色写真版。 安藤宏による解説「太宰治の旧制弘高時代のノートについて」(pp. 141-149)あり。 ❶「英語」⇨1927年4月のノート134頁分(pp. 1-90)で、表紙には「Johnson & Goldsmith / Essays by / T. B. Macaulay」と記されている。 なお、`オンライン版太宰治`のNo. 39は❶に続いてC. Brontë作 *The Professor* (1857) の受講ノートを収録の由。 ❷「修身」⇨1928年頃の書き込みが89頁(pp. 93-140)あって、初公開らしい。 口絵に「修身」の最終ページを原色で掲載。
- 『複製 太宰治自筆ノート』弘前大学附属図書館(企画制作)/弘前大学出版会 2013年3月29日 税別1万2,000円 《21.0×16.5cm》。 青森県近代文学館に寄託していた筋より2009年に「英語」と「修身」の受講ノート(上掲)が弘前大学へ寄贈されたタイミングで2冊共レプリカに制作され、セットで販売されたのが本書。 別に長谷川成一執筆の「解説」(8頁)が添えられている。 【参考】：同大学学術情報のリポジトリが両ノートから活字に起こしたデータを公開。
- 『資料集⑪：太宰治・旧制弘高時代ノート』 青森県近代文学館 2018年11月22日 pp. 1-42。 1928年度に彼が受講した比較的「落書きは少ない」ノートである「化学」から書き入れのある65頁分を「少し縮小して」、またガリ版刷りの授業資料4枚も適当な縮尺で表裏共に、それぞれ単色写真版で複製。 口絵に表紙と`相合い傘`を落書きしたページを原色で掲載し、安藤宏による解説冊子「太宰治「化学」ノート」(pp. 43-46)が付く。 【参考】：「化学」は1998年に同文学館の所蔵となり、全頁がPDFでネット公開されている。
- 日本近代文学館(編)『太宰治 創作の舞台裏』 春陽堂書店 2019年4月

15日 税別 1,800 円。 生誕 110 年を記念して同館が 2019 年 4～6 月に開催した企画展を書籍化したもの。数葉ずつ様々な縮尺で、カラーあるいは単色で複写された自筆資料の輪郭くらいは想像させるが、本書はまとまった枚数で掲載していないので、それぞれの詳細には立ち入らない。①新文藝日記(新潮社製)⇨1926 年元旦の 1 頁。②中・高校時代のノートあるいは教科書に残された落書きページ⇨「心理学」、「地鉦」、「英作文」、「國文漢文草稿帳」、「英語讀解」、「修身」、「A Modern Symposium」、「東洋史」、「English Dictation」、「物理」、「西洋史」、「法制」。③「ねこ」⇨1932 年頃の未発表掌篇 2 枚。④断片類⇨「Human Lost」、「火の鳥」、「カレツヂ・ユーモア・東京帝國大學の巻」、「悖徳の歌留多」、「善藏を思ふ」、「如是我聞」、「井伏鱒二選集」構想・草案。⑤作品に至るメモや草稿類⇨「右大臣実朝」の 2 枚、「惜別」の意圖 冒頭 1 枚など、「冬の花火」、「お伽草紙」7 枚分+別稿 1 枚、「斜陽」5 枚分、「人間失格」14 枚分。【付記】：本書の「はじめに」が、「さまざまな形で太宰治の魅力が紹介されてきた歴史があります。これらとの重複を避けるため、今回は思い切って…[中略]…残された「資料」それ自体に主役になってもらうことに意をそそいでいます。そのため、部構成も時期別ではなく、資料の性格別に組んであり、これらを読み解く面白さを通じて、作品の生み出される創造の機微に触れて頂く」と、この企画展の趣旨を述べている。

【参考】：『太宰治全集 4』(筑摩書房, 1992 年 4 月)が掲載する「著作年表」、「書誌」、「年譜」、「参考文献目録」が比較的詳細で度々参照した。【参考】：『日本近代文学館所蔵資料目録 33 : 太宰治文庫目録 (増補版)』同館 2017 年 4 月。津島家より寄贈された太宰治文庫 421 点、文庫外の特別資料 60 点、それに文学館が蒐集してきた太宰文献も併せ加えて記述する。



立原 道造 (1914-39) :

筆名山木<sup>あきひこ</sup>祥彦.

- 『かけら集』 豊橋市：麥書房 1991年11月30日 100部 1,300円。  
第一高等學校時代の友人國友則房が遺した1932年頃の詩集から立原が抜き書きした手造り9丁の詩集を複製する。それに活字化した『詩集青空』(72頁)を添えた『立原道造筆写「かけら集」・國友則房自選詩集「青空」』としての販売(2,000円)もあった。カード「刊行覚書」(1頁)の執筆者は堀内達夫であろう。【付記】：立原は『堀辰雄詩集』も手造りしていたが散佚したのであろう。
- 『立原道造筆写 源氏物語花散里』 豊橋市：麥書房 1991年11月30日 特製版5+25部 8,000円 / 並製10+270部 6,000円。 1986年頃に実弟の立原達夫が堀内達夫に見せた284cmの巻紙を本書では原寸単色の折り本片面印刷で複製するが、筆写元の版本は特定できていない由。カード「刊行覚書」(2頁)で、堀内は「道造の書の風体には三種の変化があつて、一は初期のタイポグラフィックなスタイル、二が…自己流に書き流したもの、三は色紙の書体」と分類しており、それに照らすと初期に属する筆写となろう。【参考】：今井春枝との別れに触発された5頁の散文小品「花散る里」の活字版(特製2,000円 / 並製800円)が同時に同部数制作され、セットで『立原道造 源氏 = 筆写 および 小品「花散[る]里」』も販売された。【付記】：「花散る里」のほうは『文藝懇話會』(同會, 1936年9月)が初出で、角川版の『全集③』(1971)や筑摩版の『全集①』(2006)で読めるのに対して、(筆写でしかなかったせいか)「花散里」の方は角川版全集(1971～73)や筑摩版全集(2006～10)に収録がない。
- 『滑稽読本 卷一』 豊橋市：麥書房 1991年11月30日 28+572部 700円。 1926年5月に小学6年生の道造が手造りした和装12丁の豆本が原本で、複製本は1927～32年頃に御嶽山でスケッチされた「お土産物・型録」をあしらった袋に収納されて販売された。堀内達夫による「刊行覚書」(4頁)

付き。但し、豆本は28+72部だけ単体でも提供されたようである。△「小学生時代（手づくり本）」として、『立原道造全集④』筑摩書房 2009年3月。口絵に表紙の写真、pp. 504-506に翻刻、p. 635に解題。【付記】：後述する『詩集 日曜日』の並製とセットにした『立原道造手書詩集「日曜日」と「滑稽読本」』も500部販売（5,200円）された。

□『詩集「さふらん」』宮本則子（編）立原道造記念館 2000年3月29日 特装版150部2万円 / 並製1,000部1,800円。宮本の別冊「刊行覚書」（18頁）に拠ると、1932年9月頃に道造がこれまでの口語短歌に新作の4行詩を加えてペン書きした12篇を仮想の人魚書房から発行した菊半截判無綴12頁の自装本が原本。△『同全集②』角川書店 1972年8月。▽『立原道造詩集』岩波文庫 1988年3月。

□『散歩詩集』立原道造記念館 2007年11月1日 1,000円。4篇の詩を1933年夏に8色の文字で手書きしたハガキ大のカード10枚を原寸原色で複製し、宮本則子が1枚の解説カードを執筆。【付記】：『100選』——No. 96がA5判ノートから「夕」の初稿、「日課」の第二稿それぞれ㊦1枚を複製。

□『つげごと』豊橋市：麦書房 1989年7月 600円。告別の詞として読める14行の散文詩で、1936年の夏か秋かに墨書された52cmの巻紙を原寸原色で複製する。▲「虹とひとと」として、『四季』四季社 1937年1月。

△『わすれぐさ萱草に寄す』ヒヤシンス風信子叢書刊行所 1937年5月。▽『同全集①』角川書店 1971年6月。▽『立原道造詩集』岩波文庫 1988年3月。

□『詩集 日曜日』豊橋市：麦書房 1991年11月30日 特製5+95部5,500円 / 並製23+477部4,500円。道造が1933年5月に10篇と跋を収めて自筆自装した9丁の和綴じ本が原本で、人魚書房刊本という設定。収納函共々（恐らく）原寸原色で複製された。堀内達夫による「刊行覚書」（4頁）付き。▲『ユリイカ』書肆ユリイカ 1956年10月（創刊号）。△『同全集②』角川書店 1972年8月。▽『立原道造詩集』岩波文庫 1988年3月。【付記】：

特製本は単体で提供され、並製は（上述したように）『立原道造手書詩集「日曜日」と「滑稽読本」』としてセット販売（5,200 円）された。

- 『絵入版 春のごろつき 附初稿』 麥書房 1986 年 1 月 30 日 特装本 10 + 100 部 3,800 円 / 上製異装本 30 + 1,200 部 2,800 円。 作品社の初回「新人コンクール」に応募して掲載された散文物語。 第 1 ～ 3 章から初稿 12 枚を 50% サイズ、1 枚を原寸で原色複製する。 本文全 6 章を翻刻し、色鉛筆による描画 8 点を約 90% 大で原色複製する。 巻末には堀内達夫の「刊行覚え書」（pp. 35-38）あり。 ▲『作品』 作品社 1936 年 2 月。 △『同全集③』 角川書店 1971 年 8 月。 ▽『同全集①』 筑摩書房 2006 年 11 月。
- 『\*ゆふすげびとの歌』 書痴往来社 1965 年 1 月 異装特製本 28 部 / 覆刻版 123 部 共に頒価不明。 上述の『<sup>わすれくさ</sup>萱草に寄す』を 1937 年 3 月に入稿する直前に、そこから“Sonatine No.1”として 5 篇が手写されて 1 部のみ手造りされた。 本書では、この「愛の夢」的原本をやや加工して複製する。 △『同全集①』 角川書店 1971 年 6 月。 ▽『立原道造詩集』 岩波文庫 1988 年 3 月。
- 『ゆふすげびとの歌：立原道造手書き詩集』 麥書房 1980 年 12 月 25 日 異装本 95 部 頒価不明 / 覆刻版 800 部 2,300 円。 「立原道造を偲ぶ会」発足を機に書痴往来社版（上掲）を造本面で原姿に近づけて複製（題扉 + 11 頁）。 堀内達夫の「刊行覚え書」（4 頁）付き。 【再刊】：麥書房 1985 年 12 月 特装 A 版 17 部 4,500 円 / 特装 B 版 200 部 3,000 円 / 普及版 500 部 1,200 円。 本文の再現を主目的としたが、造本には意匠が施され、「刊行覚え書」（4 頁）は改筆された。
- 『立原道造詩画』 綜合工房 1979 年 9 月 28 日 2 万円。 原本は 1933 年夏の手造り本で、仮想の人魚書房から発行された。 ①「散歩詩集」⇒ ハガキ判未綴の和紙に 8 色の文字で手書きした 10 枚を原寸原色で複製（pp. 5-15）。 △『同全集②』 角川書店 1972 年 8 月。 ▽『立原道造詩集』 岩波文庫

1988年3月. ▽『同全集②』筑摩書房 2007年12月. 口絵にこの10枚を縮小してカラーで掲載. ②「自選葛飾集」&「自選両国閑吟集」⇒複製にあたり, 親交のあった画家深沢紅子が1927～34年のパステル画から35点を選び(恐らくやや縮小して)原色で掲載(pp. 17-85)し, 山本祥彦名で綴られてきた第一&第二歌集のノートから1929年頃に書き抜かれた㊦13枚を原寸原色で添える(pp. 88-100). △『同全集⑥』角川書店 1973年7月. 初載? ▽『同全集③』筑摩書房 2007年3月. ———【付記】: 本書では更に36点のパステル画を縮小し原色で併載(pp. 101-106).

- 「講義ノートより」『立原道造全集④』筑摩書房 2009年3月31日 税込1万2,000円 pp. 176-194. 立原の建築家としての業績を伝える資料を(恐らく)初めて集成して, 縮小した単色写真で掲載. ①建築材料-1ノート ⇒ 日本と支那の建築様式に触れた1934～35年頃のメモ3頁. ②タウト講演 ⇒ 1934年7月17日まで6夜に及んだドイツの建築家Bruno Tautの講演を聴講した際のノート31頁. 【参考】: 本書ではp. 122に①, pp. 125-126に②の一部が活字化されている.

谷崎 潤一郎 (1886-1965):

- 『潤一郎自筆本 蘆刈』大阪: 創元社 1933年4月15日 500部 10圓. 淀川の蘆に囲まれた中洲で名月を愛でた話. 1932年の『改造』掲載用の完成稿(後述)ではなく, 自筆で浄書した250枚を雁皮紙に単色で印刷し古代揉紙で表紙を付けた菊横判125丁の和本. それが2枚の桐板で挟まれている. しかも購入者には紙製の外函を破棄するよう添書で求めるほど, 潤一郎は装幀に強い拘りを持っていた.
- 『蘆刈 自筆原稿複製』中央公論社 1984年10月12日 380部 4万3,000円. 装飾枠に枡目を木版刷りした美濃紙に墨書した64+41枚を原寸原色で複製して1冊に和綴じする. 松子未亡人執筆の別紙解説(1枚)に拠

ると、中央公論社から出版する約束で用意した『蘆刈』の浄書稿が大阪創元社に渡ってしまった埋め合わせとして、潤一郎が『改造』から掲載時の原稿を回収して嶋中雄作（中央公論社社長）に与えていたらしい。▲『改造』1932年11～12月。△『春琴抄』大阪：創元社 1933年12月。▽『吉野葛・蘆刈』岩波文庫 1986年6月。

- \*『異端者の悲しみー亡き母の霊にさゝぐー』『樗陰 DVD』。小説原稿 157枚。▲『中央公論』1917年7月1日。△『異端者の悲しみ』阿蘭陀書房 1917年9月。▽『刺青』新潮文庫 1950年8月。▽『谷崎潤一郎全集④』中央公論新社 2015年11月。
- \*『藝術一家言』『改造 DVD』——No. 128。漱石の『道草』と『明暗』をこき下ろした評論㊦40枚。▲『藝術一家言 その三』として、『改造』1920年7月。谷崎は同題で4, 5, 10月にも執筆していた。△金星堂 1924年10月。▽『谷崎潤一郎全集⑨』中央公論新社 2017年2月。【参考】：『改造 原稿図録①』——④が「その三」から冒頭5枚を掲載。
- 「細雪」『別冊太陽㊮谷崎潤一郎：私はきつと、えらい芸術を作つてみせる』平凡社 2016年2月22日 pp. 6-7 & 106-107。上巻の1, 88～91枚目、中巻の1～3枚目、下巻の616, 619枚目の原稿を原色で、上巻の1枚目のみ原寸で、あとは¼に縮小して掲載する。中央公論新社は全葉を所蔵するらしいが複製はされていないようである。▲『中央公論』1943年1月→『婦人公論』1948年10月。掲載先変更。△私家版(松廼舎蔵版) 1944年7月15日(上巻のみ) → 中央公論社 1946年6月～48年12月(上～下巻)。▽新潮文庫 (1955) や中公文庫 (1983) で読める。【付記】：『100選』——No. 44が補足原稿1枚と、別に『痴人の愛(十)』(1824)からも㊦2枚(69～70枚目)を複製している。
- 『春琴抄 自筆原稿複製』中央公論社 1970年6月30日(『中央公論』1000号記念出版) 500部 2万8,000円。127枚を完全複製する。美濃紙に

紅殻色で装飾枠と枅目を木版刷りした原稿用紙に毛筆書きにより 1933 年早々に起筆して春には脱稿していた。別に松子未亡人がその頃を回顧した 1 枚が添えられる。▲『中央公論』1933 年 6 月。△『春琴抄』大阪：創元社 1933 年 12 月。【参考】：『群像日本の作家⑧』小学館 1991 年 5 月 pp. 81-91. 5 枚半に加えて口絵にその他の自筆資料をカラーで掲載。

- 『少將滋幹の母』毎日新聞社 1960 年 7 月 1 日 500 部 6,000 円。「なるたけ史實の尊嚴を冒さないやうに…自分の世界を繰りひろげようと」の念いで執筆してきた由。「潤」の署名と落款のある 1 丁(+別紙添書 1 枚)+口絵 2 丁(安田靫彦<sup>ゆきひこ</sup>描)+「作者の言葉」2 丁+扉+本文 256 丁の和綴じ本を「そのままに再現」(帯)する。▲『毎日新聞』1949 年 11 月～翌年 2 月。△毎日新聞社 1950 年 8 月。▽各種の文庫本に収録。
- 「二人の稚児」NDL-DC。小説㊦97 枚をカラー(54 コマ)で公開。▲『中央公論』1918 年 4 月(春季大附録號)。△春陽堂 1918 年 8 月。▽『刺青』新潮文庫 1950 年 8 月。▽『谷崎潤一郎全集⑤』中央公論新社 2016 年 10 月。
- 「<sup>らどう</sup>續蘿洞先生」『文豪とアルケミスト文学全集』新潮社 2017 年 10 月 30 日 2,200 円 pp. 230-281。全 26 枚を ⅔ サイズに縮小し、ルビを活字で添えて単色印刷する。▲『新潮』1928 年 5 月。△文藝家協會(編)『日本小説集⑤(昭和四年版)』新潮社 1929 年 5 月。合著集。▽『谷崎潤一郎全集⑪』中央公論社 1982 年 3 月。▽『潤一郎ラビリンス II: マゾヒズム小説』中央公論社 1998 年 6 月。本篇「蘿洞先生」(『改造』1925 年 4 月発表)も併載。▽『谷崎潤一郎全集⑫』中央公論新社 2017 年 4 月。【付記】：本篇は中央公論社版『全集⑩』(1982)あるいは同新社の『全集⑫』(2017)で読める。
- 『谷崎潤一郎自筆「老後の春」影印版』実践女子大学文芸資料研究所 2014 年 3 月 20 日(別冊年報⑭)。移住先の熱海から京都を再訪した 1957 年 4 月の随想の原稿 49 丁を、『中央公論』掲載時に棟方志功が添えた版画

3点と共に谷崎が自装した和本。それを2012年に購入した同大学が全葉を(恐らくやや縮小し)単色で収録(pp. 3-112)する。河野龍也の「書誌解題: 谷崎潤一郎自筆「老後の春」について」(pp. 113-118)を併載。▲『中央公論』1957年7月。△『谷崎潤一郎全集28』中央公論社1957年12月。▽『谷崎潤一郎全集23』中央公論新社2017年3月。

- 谷崎松子(編)『谷崎潤一郎の書』五月書房 1979年5月30日 350部 6万5,000円。 B4判サイズの和綴じ本で、様々な縮尺で多色あるいは単色に印刷された自筆資料の図版38頁分、「印譜」3丁、「字は上手下手は問題でなく、人間性の表れであるから稚拙な字もそれなりの味はひがあつて、魅力を持つてゐるものだと、言つてゐた」と懐旧する松子の「あとがき」2丁からなる。B6判の「解題」(20丁)に翻刻あり。

【参考】: 上述の『別冊太陽26』は、断片的ながら作品原稿や書簡から博く図版を蒐めていて、谷崎の筆遣いを眺め渡すことができる。【付記】: 谷崎は「文房具漫談」<sup>5</sup>に「私は消しをした部分は、他人に読まれないやうに眞つ黒に塗り潰す癖があるのだが、万年筆の細い線でまんべんなく塗り潰すのは甚だ手数がかる」ので、「私は塗り潰しに使ふ太い筆を別に用意しておいて、書き損ふと、一遍にずうツと塗り潰す」と記していた。

近松 秋江 (1876-1944) :

本名徳田浩司。

- \*『京の春』『樗陰 DVD』。 10枚の随筆。 ▲『中央公論』1923年4月(春季大附録號)。 小特集「春の歡樂と哀愁」ちゅうに掲載。 △「早春」と改題して、『都會と田園』人文社1923年7月。 ▽『近松秋江全集7』八木書店1993年8月。

<sup>5</sup> 初出は『文藝春秋』1933年10月 pp. 274-277。筆者(藤井)は『事典』(p. 258)にこの随筆の存在を教えられたが、手許の『谷崎潤一郎全集22』(中央公論社、1959)で読むことができた。それに由ると、旅先にも携行する版本で原稿用罫目を和紙に紅殻で刷りながら毛筆で書き進められるのが心地良いらしい。

- \*「高野山の御廟」『樗陰 DVD』. 10 枚の随筆. ▲『中央公論』1923 年 5 月. 小特集「當世百物語」ちゅうに掲載. △『同全集11』同 1993 年 10 月. 初載. ▽『幻想文学47』山梨：アトリエ OCTA 1996 年 6 月. 合著集.
- \*「第二の出産」『樗陰 DVD』. 短篇小説. 前半部の校正刷り 3 枚と後半部の原稿 24 枚. ▲『中央公論』1925 年 5 月. △『戀から愛へ』春陽堂 1925 年 5 月. ▽『同全集5』同 1993 年 4 月.
- \*「天災に非ず天譴と思へ」『改造 DVD』——No. 130. 6 枚. ▲『改造』1923 年 10 月(大震災號). △『同全集11』同 1993 年 10 月. 初載か. ▽悪麗之助(編)『天變動く：大震災と作家たち』インパクト出版会 2011 年 9 月.

寺田 寅彦 (1878-1935) :

筆名吉村冬彦. 号牛頓,<sup>にゅうとん</sup> 藪柑子.<sup>やぶこうじ</sup>

- \*「雑記」『樗陰 DVD』. 600 字詰め用紙に 10+17 枚の随筆 2 点. ▲『中央公論』1922 年 9 月(秋季大附録號) & 翌 1 月. 吉村冬彦名義. △『續冬彦集』岩波書店 1932 年 6 月. ▽「雑記 (I)」として, 『寺田寅彦全集3』岩波書店 1960 年 12 月. 【付記】: 『同全集4』(同, 1961 年 1 月) 所載の「雑記 (II)」は, 1924 年 4 月の『中央公論』に発表された別作品.
- \*「自畫像」『樗陰 DVD』. 600 字詰め 27 枚の随筆. ▲『中央公論』1920 年 9 月(秋季大附録號). 有平糖名義. △『冬彦集』岩波書店 1923 年 1 月. ▽『同全集2』同 1960 年 2 月.
- \*「寫生紀行」『樗陰 DVD』. 600 字詰め 23 枚の随筆. ▲『中央公論』1922 年 1 月. 吉村冬彦名義. △『冬彦集』(上述). ▽『同全集3』(上述).
- \*「小さな出来事 (大正九年夏)」『樗陰 DVD』. 600 字詰め 26 枚の随筆. ▲『中央公論』1920 年 11 月. 吉村冬彦名義. △『冬彦集』(上述). ▽『同全集2』(上述).
- \*「田園雜感」『樗陰 DVD』. 600 字詰め 10 枚の随筆. ▲『中央公論』1921 年 7 月 15 日(夏季特別「都市と田園」號). 吉村冬彦名義. △『冬彦集』



(上述). ▽『同全集②』(上述).

- \*「一つの思考実験」『樗陰 DVD』. 600 字詰め 19 枚の随筆. ▲『中央公論』1922 年 5 月. 吉村冬彦名義. △『冬彦集』(上述). ▽『同全集③』(上述).
- \*「丸善と三越」『樗陰 DVD』. 600 字詰め 23 枚の随筆. ▲『中央公論』1920 年 6 月. 金米糖名義. △『冬彦集』(上述). ▽『同全集②』(上述).
- \*「厄年と etc.」『樗陰 DVD』. 600 字詰め 16 枚の随筆. ▲『中央公論』1921 年 4 月(春季大附録號). 吉村冬彦名義. △『冬彦集』(上述). ▽『同全集②』(上述).

**土井 晩翠** (1871-1952) :

本名土井林吉<sup>つちい</sup>.

- 「イーリアス [1~3]」 NDL-DC がカラー (49+54+49 コマ) で公開. 1913 年に第 1 & 2 歌を邦訳した 3 冊のノート. ▲「イーリアス絶唱」として、『中央公論』1914 年 4 月(春季大附録號). 第 1 歌の 349-611 行のみを記載.
- 「イーリアス [1]」 NDL-DC がカラー (32 コマ) で公開. 活字組みの頁に朱筆が入れられた改筆稿. 後述する富山房版『イーリアス』(1940)に「…僅か四五篇を譯したまま中絶すること十餘年」(跋)と言及された稿のことであろうか.
- 「イーリアス [1~11]」 NDL-DC がカラー (110+103+103+55+51+52+76+92+73+72+56 コマ) で公開. 1936 ~ 39 年頃にギリシア語から全 24 歌を韻文に邦訳した 11 冊のノート. △土井晩翠(譯)『イーリアス』富山房 1940 年 11 月. 「三代を経てホメーロスの韻文譯がまだ一度も世に現はれぬのは日本文學の名譽では無い. [中略]…微力を盡して此難事に當つた」(序). ▽『イーリアス 新版』同 1995 年 8 月. 新漢字を用いた新組み.
- 「オデュッセア [1~6]」 NDL-DC がカラー (105+103+103+103+100+43 コマ) で公開. 1941 年 10 月 7 日に晩翠は全 24 歌を 6 冊のノートに邦訳し終えた. △土井晩翠(譯)『オデュッセア』富山房 1943 年 2 月.

「『イーリアス』譯と同様に私は本篇の heroic hexameter 毎行を七五複行に直し、原典と等しく一萬三千餘行に譯了した。」(序)。

**土岐 善麿** (1885-1980) : 号湖友, 哀果。

- \*「リットン報告書と共に國民的關心に<sup>うった</sup>ふ」『改造 DVD』——No. 133.  
山本實彦の著作『満・鮮』(改造社, 1932)を推奨した<sup>㊦</sup>2枚の短文。▲『改造』1932年11月。【付記】: 単行本には未収録のようである。

**徳田 秋聲** (1871-1943) : 本名末雄。

- \*「或女の死」『樗陰 DVD』。小説19枚。▲『中央公論』1922年1月。  
△『現代傑作選集<sup>㊦</sup>1: 潮風』聚英閣 1923年2月。谷崎潤一郎や菊池寛たちの作品を集める。▽『徳田秋聲全集<sup>㊦</sup>14』八木書店 2000年7月。
- \*「宇治の一日」『樗陰 DVD』。小説18枚。▲『中央公論』1921年7月15日(夏季特別「都市と田園」號)。△『秋聲全集<sup>㊦</sup>5』非凡閣 1937年7月 / 臨川書店 1974年11月。<sup>6</sup> ▽『徳田秋聲全集<sup>㊦</sup>14』八木書店 2000年7月。
- \*「お品とお島の立場」『樗陰 DVD』。小説41枚。▲『中央公論』1923年5月。△『籠の小鳥: 短篇集』文藝日本社 1925年5月。▽『秋聲全集<sup>㊦</sup>6』非凡閣 1936年12月 / 臨川書店 1974年11月。▽『徳田秋聲全集<sup>㊦</sup>14』八木書店 2000年7月。
- \*「死の執着」『樗陰 DVD』。小説38枚。▲『中央公論』1921年9月(四百號紀念號)。△『秋聲全集<sup>㊦</sup>5』非凡閣 1937年7月 / 臨川書店 1974年11月。  
▽『徳田秋聲全集<sup>㊦</sup>14』八木書店 2000年7月。
- \*「勝敗」『樗陰 DVD』。小説61枚。▲『中央公論』1921年1月。△『離

<sup>6</sup> 1974年11月に臨川書店が全15巻の非凡閣版全集(1926~37)に第16と17巻を加えて一括複刻、翌75年10月に全18巻に増巻して完結させた。なお、八木書店版全集(1997~2006)は全42巻に416作品を収録し、更に別巻1には付属資料のCDが付く。

- るゝ心』金星堂 1922 年 3 月。▽『秋聲全集⑤』非凡閣 1937 年 7 月 / 臨川書店 1974 年 11 月。▽『徳田秋聲全集⑬』八木書店 1998 年 11 月。
- \*『初冬の気分』『樗陰 DVD』。小説 38 枚。▲『中央公論』1923 年 1 月。△『籠の小鳥』(上掲)。▽『秋聲全集⑥』非凡閣 1936 年 12 月 / 臨川書店 1974 年 11 月。▽『徳田秋聲全集⑭』八木書店 2000 年 7 月。
- \*『蘇生』『樗陰 DVD』。小説 32 枚。▲『中央公論』1922 年 6 月。△『徳田秋聲全集⑭』八木書店 2000 年 7 月。初載か。【付記】：新潮社の『蘇生』(1926) は同題の長篇小説。
- \*『耻辱』『樗陰 DVD』。小説 30 枚。▲『中央公論』1924 年 7 月。△『籠の小鳥』(上掲)。▽『秋聲全集⑥』非凡閣 1936 年 12 月 / 臨川書店 1974 年 11 月。▽『徳田秋聲全集⑭』八木書店 2000 年 7 月。
- \*『不安のなかに』『樗陰 DVD』。小説 45 枚。▲『中央公論』1924 年 1 月。△『現代小説全集⑬：徳田秋聲集』新潮社 1925 年 6 月。▽『秋聲全集⑥』非凡閣 1936 年 12 月 / 臨川書店 1974 年 11 月。▽『徳田秋聲全集⑭』八木書店 2000 年 7 月。
- \*『復讐』『樗陰 DVD』。小説 23 枚。▲『中央公論』1921 年 5 月。△『離るゝ心』(上掲)。▽『秋聲全集⑤』非凡閣 1937 年 7 月 / 臨川書店 1974 年 11 月。▽『徳田秋聲全集⑭』八木書店 2000 年 7 月。
- \*『未解決のまゝに』『樗陰 DVD』。小説 69 枚。▲『中央公論』1925 年 4 月(春季大附録號)。△『籠の小鳥』(上掲)。▽『秋聲全集⑥』非凡閣 1936 年 12 月 / 臨川書店 1974 年 11 月。▽『徳田秋聲全集⑮』八木書店 1999 年 3 月。【参考】：『事典』pp. 273-277。

徳富 蘆花 (1868-1927) :

本名健次郎。

- 『徳富健次郎日記』岩波書店 1936 年 5 月 5 日 350 部 8 圓 《四六倍判 / 102 頁》。結婚 20 年目に再開された日記の初め 2 ヶ月分すなわち 1914

年5～6月の部分をほぼ原寸単色で複製。その巻末に妻愛子による「あとがき」(2頁)あり。△『蘆花日記①』筑摩書房 1985年6月。初載? ①の月報に「原本はたいへん読みにくい文字で書かれていますが、一所懸命で読み解きました」とある。

**豊島 與志雄** (1890-1955) :

- \*『影』『樗陰 DVD』。 13枚の短篇。 ▲『中央公論』1923年5月。小特集「當世百物語」ちゅうに掲載。 △『旅人の言』聚英閣 1924年7月。 ▽『豊島与志雄著作集⑥』未来社 1967年11月。 ▽『幻想文学④7』山梨：アトリエ OCTA 1996年6月。合著集。
- 「子を奪ふ」NDL-DC がカラー (111 コマ) で公開。 中篇小説 108 枚。 ▲『中央公論』1921年5月。 △『未来の天才』春陽堂 1925年11月。 ▽『同著作集①』同 1967年6月。
- \*『野ざらし』『樗陰 DVD』。 小説 233 枚。 ▲『中央公論』1923年1月。 △新潮社 1923年2月(中篇小説叢書⑩)。 ▽『現代日本文學全集③③』筑摩書房 1955年3月。岸田國士集と合冊。 ▽『同著作集②』同 1965年12月。
- \*『眞夜中から黎明まで』『樗陰 DVD』。 随筆 6 枚。 ▲『中央公論』1923年3月。小特集「徹夜するもののみが知る眞夜中と黎明の感じ」ちゅうに掲載。 △『旅人の言』(上掲)。 ▽『同著作集⑥』(上掲)。 ▽『日本幻想文学集成⑱：豊島与志雄』国書刊行会 1993年3月。

**永井 荷風** (1879-1959) : 本名壯吉。号斷腸亭主人、鯉川兼待、金阜山人など。

- 『机邊の記』青燈社 1936年4月3日 500部 2圓20錢。 「荷風書屋机上の珍寶」を話題にした随想7篇に自描の挿画を添えた18丁を複製する。 ▲『女性』プラトン社 1924年11月。挿画を省いて5篇のみ掲載。 △「几邊の記」として、『荷風文藁』春陽堂 1926年4月。やや加筆あり。 ▽『永井

荷風全集<sup>15</sup>』岩波書店 1993 年 12 月。「几邊の記」(pp. 435-439) および青燈社本の翻刻 (pp. 535-541)。【付記】:NDL-DC が青燈社本を単色 (21 コマ) で公開。

- 『詩稿「偏奇館吟草」』 八木書店 1968 年 5 月 24 日 350 部 1 万円。  
1943 年頃に第一詩集を企図して 40 篇を転写した 76 丁を自装したものを原寸原色で複製。吉田精一・小門勝二執筆の別冊解説 (39 頁) 付き。▲『三田文學』 叢山書店 1913 年 2 月。4 篇のみ。▲『女性』 新生社 1946 年 5 & 6 月。2 篇ずつ。△『來訪者』 筑摩書房 1946 年 9 月。時に応じて「詩篇と小説の草稿を浄寫し、之を贈呈して謝意に代へ」(序) てきた吟草類を、熱海在の友人が回収し取り纏めて出版に至った。▽『永井荷風全集<sup>20</sup>』 岩波書店 1994 年 10 月。【参考】:青木(2002) が pp. 22-26 に罍<sup>20</sup> 20 枚を、すなわち「夏鶯」, 「絶望」, 「こうろぎ」, 「永きわかれ」を多色で, 「鳩」, 「<sup>こほろぎ</sup>蟬」を縮小した単色刷りで掲載。
- 『溷東綺譚 自筆原稿複製』 中央公論社 1971 年 1 月 25 日 270 部 7 万 5,000 円。 1937 年 4 月発行と奥付に手描きした和綴じ本 3 冊を原本にして原寸原色で複製。小門勝二が別冊の「溷東綺譚 自筆原稿複製にあたって」(25 頁) を執筆。①一冊目 ⇨ 朱筆入り京屋印刷所の再校ゲラ pp. 1-31 + 本文原稿 11 丁。②上巻 ⇨ 前付 3 丁と原稿 87 丁。③下巻 ⇨ 原稿 84 丁。——▲『朝日新聞』 1937 年 4 ~ 6 月 (35 回連載)。△『溷東綺譚』 烏有堂 1937 年 4 月。私家版 50 部限定で「作後贅言」付き。▽各種文庫本。【付記】: 筆者(藤井)の所蔵本には荷風の小山勝治(小門の本名)宛葉書(1956 年 6 月 18 日付)が挿まれていた。【付記】:『100 選』——No. 26 は下巻の第 58 丁。また No. 27 には『斷腸亭日乗』から 2 丁(1945 年 3 月 9 日付)。

長田 秀雄 (1885-1949) :

- \*「夜の恐怖・暗黒の鬼氣」『樗陰 DVD』。 随想 6 枚。▲『中央公論』

1923年3月、小特集「徹夜するもののみが知る眞夜中と黎明の感じ」ちゅうに掲載。【付記】：初載刊本は不明。転載も無さそうである。

### 長塚 節 (1879-1915) :

- 『歌稿 浮巢』中山省三郎(編) 書物展望社 1937年3月10日 2圓。  
1936年に発見された遺稿の一部で、1900年詠と推定される短歌と長歌すなわち「浮巢」(14丁)、「フタアラ山」(5丁)、「百合」(3丁)、他1丁を和綴じにする。複製は単色で恐らく原寸通り。別冊「解説」の序文(2頁)で齋藤茂吉は「まのあたり著者に膝を交へて會談してゐるやうな氣持をおこさせる」と述べており、翻刻(38頁)は発見者中山による。▲『アララギ』根岸短歌會 1937年1～3月。△中山(編)『長塚節遺稿』小山書店 1942年5月。▽『長塚節全集⑤』春陽堂書店 1978年11月。
- 『佐渡が島：長塚節自筆草稿』日本古書通信社 1966年9月14日 400部 4,300円。1906年の東北旅行に取材した「波の上」に始まる写生文35丁の和装本を原寸原色で複製。柴田宵曲・山本修之助執筆の別冊「解説」(32頁)が付く。▲『ホトトギス』ほとゝぎす發行所 1907年11月。△『炭焼の娘』春陽堂 1915年5月。▽『長塚節全集②』春陽堂書店 1977年11月。【付記】：これに感心した漱石が『東京朝日新聞』に口を利いて、長塚の代表作となる「土」(1910)の連載が実現した。

### 中原 中也 (1907-37) :

- 『群像日本の作家⑮：中原中也』小学館 1991年6月10日 税込1,800円  
口絵(カラー) & pp. 186-193。①「幼なかりし日」⇨草稿㊦2枚。  
②「三毛猫<sup>あるじ</sup>の主の歌へる」⇨草稿㊦2枚。③「吾子<sup>あこ</sup>よ吾子」⇨㊦2枚。  
④「春の日の歌」⇨㊦2枚。▲『文學界』1936年5月。△『在りし日の歌』創元社 1938年4月。⑤「追懷」⇨草稿1枚。⑥「こぞの雪今いづこ」

- ⇒ 草稿 1 枚。 ⑦「西部通信」⇒ 絶筆稿㊦2 枚。 ▲『詩園』松山：詩園社 1939 年 12 月。 △『同全集③』創元社 1951 年 6 月。 ▽『同全集③』角川書店 1967 年 12 月。 ⑧「春の[日]の夕暮」⇒ 草稿 1 枚。 △『山羊の歌』文圃堂書店 1934 年 12 月。 ———△『中原中也全集①』創元社 1951 年 4 月。「未刊詩篇（其の一）」に①③⑤⑥。「未刊詩篇（其の二）」に②。 ▽『中原中也全集①』角川書店 1967 年 10 月。 ①④⑧。 ▽『同全集②』角川書店 1967 年 11 月。 ②③⑤⑥。 【付記】：『100 選』——No. 88 が⑧を、そして No. 89 に『在りし日の歌』から「冬の長門峡」1 枚半を複製。
- 『新編中原中也全集 別巻上：写真・図版篇』角川書店 2004 年 11 月 30 日 税別 1 万 3,000 円（上・下冊セット価）。 中原家所蔵の遺稿を複写・撮影するのに（別巻下 p. 573 に由ると）3 人掛かりで 3 日を要した由であるが、全 6 巻 12 冊ある角川版全集（2000～04）が掲載する図版に集合を掛けて点呼する余裕は無いので、別巻上収録の自筆資料に限定して略述する。なお各資料は（基本的には）縮小され単色で収録されており、詳細な分解一覧も付いてる。 ①「ランボー翻訳筆写稿」⇒ 上田敏や鈴木信太郎による訳詩やフランス語の原詩を書写した 6 枚半+6 枚半+6 枚半+㊦9 枚（口絵ちゅうの pp. 35-48）。 ②『山羊の歌』校正刷⇒ 150 頁分（pp. 15-52）。 ③「ノート 1924」⇒ 106 頁分（pp. 63-90）。 ④「ノート小年時」⇒ 42 頁分（pp. 95-106）。 ⑤「早大ノート」⇒ 88 頁分（pp. 116-138）。 ⑥「ノート翻訳詩」⇒ 64 頁分（pp. 146-162）。 ⑦「翻訳詩ファイル」⇒ 10 頁分（pp. 164-166）。 ⑧「新文藝日記」⇒ 1927 年用新潮社製日記帖から記入のある 356 頁分（pp. 176-274）。 ⑨「療養日誌」⇒ 1937 年 1 月 25～31 日の日記 13 頁分（pp. 286-299）。 ⑩「千葉寺雑記」⇒ 1937 年 1 月 20 日～2 月 14 日の 70 頁分（pp. 305-323）。 ⑪「SCRAP BOOK」⇒ 1934 年 5 月 20 日から晩年までの貼付帖 11 頁分（pp. 349-353）。 ———△『新編中原中也全集②：詩Ⅱ』角川書店 2001 年 4 月。 ③④⑤を活字化。ちなみに、同函の『同②：解題篇』も

84 頁相当の自筆資料を掲載。△『同③:翻訳』同 2000 年 6 月。⑥⑦。△『同⑤:日記・書簡』同 2003 年 4 月。⑧⑨⑩。

長與 善郎 (1888-1961) :

- \*「小母のいたづら」『樗陰 DVD』。小説 28 枚。▲『中央公論』1923 年 7 月。△『菜種圃』<sup>なたねばたけ</sup>岩波書店 1926 年 4 月。▽『あたし』操書房 1948 年 10 月。

夏目 漱石 (1867-1916) : 本名夏目金之助→鹽原→夏目。俳号愚陀佛。

- 「永日小品 山鳥(上・下) 自筆原稿」『名著複刻全集:明治後期』名著複刻全集編集委員会(編集)/図書月販(製作)/日本近代文学館(刊行) 1968 年 9 月 10 日 4 万 5,000 円(セット価)。セットの付録として、「永日小品」25 篇ちゅう唯一原稿が揃って残っている「山鳥」㊦15 枚を、編集者による書き入れを抹消したうえで原寸原色で複製。▲『朝日新聞』1909 年 2 月 1 & 2 日。△『四篇』春陽堂 1910 年 5 月。▽各種の文庫本に収録。【再刊】: セット新編成の『新選名著複刻全集』(日本近代文学館)の第 5 刷(1972 年 4 月)から第 26 刷(1984 年 10 月)にかけて付録にされた。
- 「虞美人草」『別冊太陽③②:夏目漱石』平凡社 1980 年 9 月 25 日 2,000 円 pp. 12-13。縮小して原色で冒頭の 1 枚のみを掲載。<sup>7</sup> ▲『朝日新聞』1907 年 6 ~ 10 月。△『虞美人艸』春陽堂 1908 年 1 月。
- 「ケーベル先生の告別」『別冊太陽③②』(上掲) 付録。東京帝國大學を辞してドイツへ帰国する Raphael von Koeber (1848-1923) への餞として、漱石が教え子を代表して執筆した㊦8 枚を原寸原色で複製。▲『東京朝日新聞』1914 年 8 月 12 日。△『漱石全集⑨:小品・評論・雜篇』其刊行會

<sup>7</sup> 本稿では 1 ~ 2 葉ばかりの掲載では原則として作品名で立項しないのであるが、本誌③②は絵画 20 点(pp. 130-140 と付録)、書蹟 16 点(pp. 141-150 と付録)など、縮小されながらも原色で複製して「漱石図録集」の趣きが濃いので、柔軟に構えてここに立項した。



1918年8月. ▽各種の文庫本に収録.

- 『心 漱石自筆原稿』 岩波書店 1993年12月9日 480部 税込22万円. ㊦885枚を原寸原色で複製して, ①: 原稿の第1~30回, ②: 31~50回, ③: 51~70回, ④: 71~90回, ⑤: 91~110回の5分冊にして天で綴じる. 石原千明執筆の別冊解説(16頁)付き. ▲「心 先生の遺書」として, 『朝日新聞』1914年4~8月. △『こゝろ』 岩波書店 1914年9月. 同9月筆の「序」を添えて, 新聞掲載時の(1)~(36)を「上 先生と私」(刊本の第1~36回), (37)~(54)を「中 両親と私」(第1~18回), そして(55)~(110)を「下 先生と遺書」(第1~56回)となるように構成された. 【付記】: 『100選』—No. 8が冒頭の㊦1~2枚目. 【付記】: 『定本漱石全集①』 岩波書店 2016年12月. (13)から6枚目を複製した付録あり. 【参考】: 『夏目漱石集「心」』 大阪: 和泉書院 1991年12月. 初出紙の切り抜き.
- 「三四郎」『別冊太陽③2』(上掲) pp. 14-15. 冒頭の㊦1枚を縮小した原色の図版. ㊦970枚の全葉を和綴じ4冊に製本して天理図書館が所蔵するらしいが複製はなされていないようである. ▲『朝日新聞』1908年9~12月. △『三四郎』 春陽堂 1909年5月.
- 『漱石自筆原稿 それから』 岩波書店 2005年9月27日 320部 税別16万円. ㊦963枚を洋紙の片面に原寸原色で印刷して5冊に和綴じする. すなわち①: 原稿の第1~21回, ②: 第22~46回, ③: 第47~65回, ④: 第65[は誤記で実際は66]~87[88]回, ⑤: 第88[89]~109[110]回となる. 十川信介の別冊解説(23頁)付き. ▲『朝日新聞』1909年6~10月. △『それから』 春陽堂 1910年1月. 【参考】: 『小説は書き直される』がpp. 42-47に構想メモを紹介する. 【付記】: 『別冊太陽③2』(上掲)のp. 16に冒頭の㊦1枚.
- \*『<sup>ぼくせつろく</sup>木屑録』 岩波書店 1933年3月15日 6圓50銭. 1889(明治22)年に友人と房総を旅して, 初めて「漱石」の雅号で綴った23歳の漢文紀行文

26丁と翌年の五言律詩2丁, 正岡子規による朱批も含めて, 原寸原色で複製。別冊(32頁)に小宮豊隆の解説と漱石の教え子湯淺廉孫<sup>れんそん</sup>による漢文からの訳文。△『漱石詩集 印譜附』岩波茂雄 1919年6月。▽『漱石全集<sup>18</sup>』: 漢詩文』岩波書店 1995年10月。

- 『木屑録』『名著復刻 漱石文学館』日本近代文学館 1975年11月15日 11万4,000円(セット価)。 上述の岩波版(1933)を別冊共々複製する。  
【参考】: このセットには上述の『漱石詩集 印譜附』(1919)も含まれる。
- 『夏目漱石自筆全原稿 坊っちゃん 付別冊』番町書房 1970年4月15日 2,000部 3万円。 ㊦150枚(24字12行)の全葉を原寸原色で複製し, A3横判の左ページに貼り込む。「別冊」(図版6+44頁)には江藤淳, 林原耕三, 柳澤眞次郎(原稿所蔵者), 夏目伸六, 紅野敏郎が寄稿。▲『ホトトギス』ほとゝぎす発行所 1906年4月。△『鶉籠<sup>うずらかご</sup>』春陽堂 1907年1月。【付記】: 番町書房版には30%に縮小した多色刷りの軸絵「青嶂紅花図」(1915)が付く。【参考】: 『群像日本の作家<sup>1</sup>』小学館 1991年2月 pp. 86-95. 冒頭5枚と, 口絵にカラーでその他の自筆資料を掲載。【参考】: 『小説は書き直される』pp. 87-89。
- 『直筆で読む「坊っちゃん」』集英社 2007年10月22日(新書ヴィジュアル版) 税別1,200円。 ㊦150枚(24字12行)の全葉を新書判に合わせて60%に縮小して原色複製。併載の「自筆原稿を「読む」たのしみ」(pp. 5-59)で秋山豊が, 「自筆の原稿を読む予備的な準備」として, 「活字で読むのとは違う発見」に出会える可能性を説く。
- 『夏目漱石原稿 道草』日本近代文学館(監修) 二玄社 2004年3月22日 380部 税別9万5,000円。 ㊦889枚を光沢紙の表裏に原寸原色で印刷した3冊本で, ㊦は第1~35回の㊦291枚, ㊦は第36~69回㊦304枚, ㊦は第70~102回㊦294枚。十川信介執筆の別冊「原稿で読む『道草』」

(8頁)<sup>8</sup>には付録に冒頭の2葉が複製されている。▲『朝日新聞』1915年6～9月。△『道草』岩波書店1915年10月。【付記】：この複製では、原稿の欠けた第16と17回、第38回の1枚目、第45回の9枚目の本文が『朝日新聞』の紙面から活字で補われたが、2015年になってその部分が神奈川で発見された由である。

- 「『道草』第十三章書きつぶし原稿三点・英文らくがき原稿一点」『復刻初版本夏目漱石文学選集』日本リーダーズダイジェスト社1979年7月15日 3万4,800円(セット価)。付録として原寸原色で複製された罫4枚と小坂晋による解説カード1枚。【参考】：『漱石全集26』岩波書店1996年12月 pp. 81-131。書き潰し原稿罫219枚分を翻刻して初収録。【参考】：内田百閒「漱石先生の書き潰し原稿」『私の「漱石」と「龍之介」』筑摩書房1965年5月。門弟に無心されれば漱石は反古を気軽に下げ渡していたらしい。
- 「『明暗』『別冊太陽32』(上掲) pp. 26-27。連載初回の冒頭と、最終の第188回冒頭から罫1枚ずつを70%に縮小して原色で掲載。「苦渋のあと」も著しく、息づまるような進行のしぶりが手にとるようにわかる」6冊の稿本は、日本近代文学館に寄託されているらしいが、複製刊行の事例を知らない。▲『朝日新聞』1916年5～12月。漱石は12月9日に病没し188回目で絶筆。△『明暗』岩波書店1917年1月。【付記】：『100選』——No. 9。初回冒頭と第158回冒頭から罫1枚ずつ。【参考】：『漱石全集26』岩波書店1996年12月 pp. 132-225。この作品の書き潰し原稿罫441枚分の翻刻を初収録する。【付記】：川島幸希『直筆の漱石』新潮選書2019年11月 pp. 164-167。完成原稿の伝承過程に触れる。

<sup>8</sup> 十川は「…活字本の『道草』とは異質な、別系統のテキストである。読者は漱石山房の十九字詰原稿用紙にインクで記された崩し字を読み、奇妙な図形のように丹念に消された抹消部で立ち止まり、吹き出しで加えられた挿入部を追って、ゆっくりと進まなければならない。[改行]それは漱石が営々と築いた小説世界の生成を、自分なりに辿ってみる行為である。」(p. 1)と、自筆原稿を読む醍醐味について手解きしている。

- 「吾輩は猫である」『別冊太陽㉔』：夏目漱石の世界』 平凡社 2015年8月21日 税別2,400円 pp. 8-9. 第9回(1906年3月)の1枚目のみ、岩波版『漱石全集①』(1993)の編者が参看できた原稿は、第9回：34枚、第10回：4枚、第11回：84枚のみであった由。 ▲『ホトトギス』ほととぎす発行所 1905年1月～翌年8月(第11回まで)。 △『吾輩ハ猫デアル』大倉書店・服部書店 [㉕]1905年10月&㉖1906年11月&㉗1907年5月。 【付記】：『100選』——No. 7が第9回の冒頭1枚を複製。 【付記】：『別冊太陽㉔』(上掲) pp.6-7. 第10回(1906年4月)の冒頭1枚を掲載。
- \*夏目純一(編)『漱石遺墨集』 全5輯 春陽堂 1922年12月31日～24年9月18日 非賣品(各10圓)。 各輯がA3判に近いサイズに複製した10枚の描画(彩色の5枚は木版刷り)を収録した和装本。 純一は漱石の長男でヴァイオリニスト。 【付記】：NDL-DCが全5輯すなわち①：14コマ、②：14コマ、③：15コマ、④：14コマ、⑤：14コマを単色で公開。
- 『夏目漱石全集別冊 漱石遺墨集』 創藝社 1954年7月31日 非売品《四六倍判》。 同社全12巻の『全集』(1953～55)のうちの第1～10巻を購入した者への特典として制作された。 口絵4頁は原色、pp. 1-68では単色で書画類56点を印刷し、次男で随筆家の夏目伸六と津田青楓による文章を pp. 71-87に掲載する。
- 『漱石書畫集』 岩波書店 1976年6月28日 4,800円 《A3判 / 72頁》。 水彩画10点、短冊5点、水墨画4点、書蹟および句稿11点を原寸あるいは縮小しオフセット多色刷りで左ページに一点ずつ複製。 巻末に翻刻(3頁)。
- 津田青楓・夏目純一(監修)『夏目漱石遺墨集』 全6巻 求龍堂 ①：1979年5月1日、②：同11月25日、③：同7月25日、④：1980年1月25日、⑤：1979年9月25日、⑥：1980年3月25日 各2万円。 ①&②：稲垣達郎(序)による『書蹟篇』は131点を収録し、小冊子「『漢詩文』釈文」(13頁)を②に挿み込む。 ③&④：野上彌生子(序)の『絵画篇』は101点

を主に原色で印刷。 [5]&[6]: 夏目純一(序)の『書簡篇』は132点を集成。  
[6]に論文・釈文・作品解説の「別冊」(86頁)あり。図版は本体サイズ(B4  
変型)に沿った縮尺率で収録されている。

- 鈴木史楼(編)『精選夏目漱石の書』 名著刊行会 1986年6月19日 2万円  
《B4判》。 書蹟・書簡など63点の単色写真を様々な縮尺率で掲載し、  
pp. 187-208に論考類と求龍堂版『遺墨集』(上掲)から解説を転載する。

**野上 彌生子** (1885-1985): 本名小手川ヤエ。筆名八重子→彌生子。

- \*「生別」『樗陰 DVD』。 [冊]143枚の小説。 ▲『中央公論』1920年1月。  
△『野上彌生子全集[4]』岩波書店 1981年1月。 ▽『野上彌生子全小説[4]』  
岩波書店 1997年5月。
- \*「邯鄲」『樗陰 DVD』。 謡曲「邯鄲」に取材した三幕物 [冊]309枚。 ▲『中  
央公論』1920年9月(秋季大附録號)。 △『人間創造』岩波書店 1926年4月。  
修訂して収録。 ▽『同全集[14]』同 1981年3月。 ▽『同全小説[15]』同 1998  
年7月。
- \*「キリストと祖父と母」『樗陰 DVD』。 [冊]66枚の小説。 ▲『中央公論』  
1924年1月。 △『若い息子』岩波書店 1933年7月。 ▽『同全集[5]』同  
1981年4月。 ▽『同全小説[5]』同 1997年11月。
- \*「澄子」『樗陰 DVD』。 [冊]176枚の小説。 ▲『中央公論』1923年4月(春  
季大附録號)。 △『野上彌生子選集[4]』中央公論社 1952年4月。 ▽『同全  
集[5]』(上掲)。 ▽『同全小説[5]』(上掲)。
- \*「一つの家」『樗陰 DVD』。 [冊]198枚の小説。 ▲『中央公論』1921年4  
月(春季大附録號)。 △『小説六つ』改造社 1922年4月。 ▽修訂後「所有」  
として、『海神丸 其他』改造社 1924年9月。 ▽『同全集[4]』(上掲)。 ▽『同  
全小説[4]』(上掲)。
- 『自筆稿本 明暗』 岩波書店 1988年7月25日 350部 3万4,000円。

小説. 600字詰め71丁を原寸原色で和綴じ本に複製. 別冊の「釈文・解説」(98頁)には瀬沼茂樹も執筆. 漱石の取り巻きのひとり野上豊一郎と結婚していた彌生子のデビュー作になるはずであったが漱石により落第点を付けられ, その後原稿は行方不明となり, 彌生子の没後に自宅から発見された. ▲『世界』岩波書店 1988年4月. △『野上彌生子全集 第Ⅱ期28』岩波書店 1991年6月. ▽『同全小説14』同 1998年6月. 【参考】: 漱石の彌生子宛明治40(1907)年1月17日付書簡も縮小した写真と釈文付きで本書の別冊に掲載 (pp. 73-78).

- \*「燃える過去」『改造 DVD』——No. 149. 震災で炎上する東京帝國大學圖書館を遠望した罫7枚. ▲『改造』1923年10月(大震災號). △『同全集18』同 1980年9月. 初載. ▽悪麗之助(編)『天変動く: 大震災と作家たち』インパクト出版会 2011年9月. 合著集.

**野口 雨情** (1882-1945) :

本名英吉.

- 「赤い靴」『100選』——No. 30. 童謡草稿全1枚を原寸原色で複製. ▲『小學女生』實業之日本社 1921年12月. △『青い目の人形』金の星社 1924年6月. 第二童謡集. ▽『船頭小唄』彌生書房 1978年3月.

[以下次号]